

蓬州舊勝錄十九

夔州縣史編纂印

共拾九冊

第四門

品目	調製	費
年月日	昭和	三
年月日		号

294  
ス  
1-19



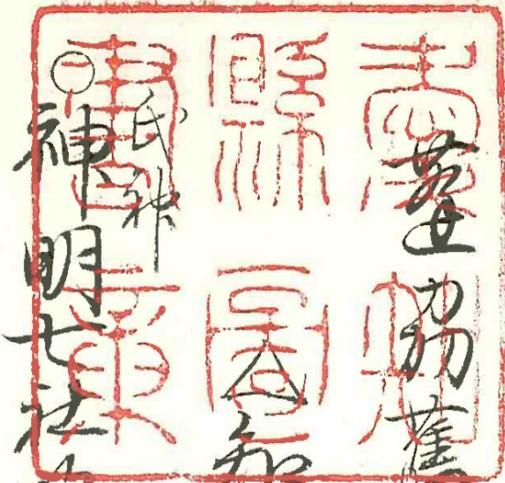
卷之九

十八十九止

知多郡

共十九冊

第一千九百七拾四號



勝祿卷之十八

冷茶町遍集

知多郡續の部

西浦

神田氏印

材並村 社人 篠田万左史

棟敷七 糸殿 高井 陽垣

祭礼毎年六月十五六日

境内 大日堂

大坊寺祀、大御宗山境内鎮守布氏神社人々祭礼配下云々

大坂 三社権院

内 十町六反系 古反古反系

大坊飲 寮院飲

秀吉朱下

邦若所代、御宗山比大御堂飲、内云々



A294  
又  
1-19



贈従二位清和源氏左典厩義朝朝臣義

宗軍、致北ス

尚浦ニ居下リ終ヒ長田ヲ籠テ永曆元年正月ニ自縊死  
行年三十八歳 寛政己子年也三十三歳ニ歿ス

謙田玄情政家

初澄守政清

義朝公の直臣而従来リ

男長田ヲ家ニ齎シ女ニ教戮ニ合ヘリ于時年八歳 淨土坊ニ  
住禪を

沈禪尼塚

後年頼朝御命為教忠篤志之臣也

享保十一年年廿七尼公塚の邊ニ枯木の根を塚穿ツコト  
乃爲 兼持なる古刀を塚中ニ見出シ傳來也

織田信孝墓

切岸徳虎大禪定門

天正十一年 五月廿七

信長公の三男從四位下侍從三七歳信孝坊別所ノ跡也  
天正十一年年十一月秀吉ト柴田信家雅執れせし日大塚  
末年アリ秀吉信家志保ヲ獄一發の時信雅ハ秀吉ニ曰

信孝ハ信家ニ曰古力を合ヤラズ柴田殺亡の後以地ニ居  
下リ來而秀吉の爲ニ自殺于時曰吾ヲ殺スル行年廿七  
古ノ南ノ坊の地持蓮坊ト云々ハ安芸防以ちて生害ニ  
禪世ト云々ハ古ノ古を以て内海の浦を以ていふと待てるや  
相傳説アリト生害の殺カト附居たる由留の士ニカカト  
若智テ居りし名指蓮坊處ニ掛りたり神々  
ガ林の邊ニ切腹の時血の死教り知りし是也曰都古村  
妙宗寺ニ傳來りたり

古田塚下一搦門五輪名曰平リ但ニ禪尼謙田ハ女小

血代

八間

義朝の平リを以て志代ニ由家公礼の事

阿比ハ必血文ニ赤ク成ト云傳たり沈の邊ニ茶をたり  
巡リに地を銘血代ト云れたり一茶白枕産馬刈家ニ抱び  
引れるがハ赤ク成候りて秋の事

判官平康頼墓

後日ニ在り尚都一守後の時也  
を再興一水田也を寺附たり也

下馬橋

血代の側小川に渡り女の古橋をりて云

長田屋浦

（屋敷跡を町一反に血代が外宮を院の横をりて大坊を履き方一町半海と田畠下成ん

跡未去

（密教院の表山のる根をりて是も田代也忠致曰くを密教寺跡に合ふ地なり

大坊付お宝室の口一二を記す

大掛お二幅

（長七丁半り中六丁に幅一幅の義朝公長田が

神礼し橋をりて義室玄光令五九柄長田が勢と合戦の神今一幅の頼朝公大深寺吉兼立供養法會の神極彩文をりて揮毫十八歳の筆の筆の信長も徳永の西大破なり敬之師代所再録の亦け絵巻破換お好む信田信之無る命下をりてお東下守の筆の抄巻有りて別傳田代をりて西解と云坊の書目百陽宛と云くとも云

血代深沢

明應年中血代浦をりて深意地の御也

義朝ノ刀

三落し青江ト云長二尺寸斗皮柄黒鞘

鏡裏一目貫令のぞく所銘ハ練り所也 里流云 舟の義朝上りのゆふ時よく出速にわん者有り姓名を廻路したるもるさゆをり有りて田代も岩阿も藤原の畧に廻りて是をりて藤原久田石尼と名付けてけ刀をのりて云

西相原教子公御自筆巻お大坊をりて御文章

一内海へ義朝古依の尻平賀四節義室徳田高正廣令五九け外勢柄の玄光出取に手おをりて云此也  
一内海より長田屋浦忠致子長生景致と後合志義朝をのりて付也一景致人子にかたふ是をりて付也中代同心

- 一 湯敷をそぎ給へば中志播七郎之次濃尾張兩国の  
大カキ相の膝の下に志ろれたる者也
- 一 さしては深草坊須田の三郎也
- 一 玄光の奥波賀の長者大炊が才大炊の義給の親也  
の親也
- 一 義給は村中年 三十八徳田日世八
- 一 謙田三出を先主京致妻戸の親を、兩條を侍りふ  
たは也

右ノ通り所存也也也也

舊免状 先祖大膳長田の水地ちのち更忠政の年  
高郡 美那郡の領を中川刑部女捕在長ト京致の末子  
たり 神君のくは也給たりて所給也給に依り  
長系に某代く水地也をひて大膳と名置小名所免の

澄状御老申方々来れ古田平内名免の也予時長田の  
名免平内守に懸る名免の可を切り割り予は由予  
彼寺に在り大膳候也

急度中へ入りの脱回へ大膳さいたり

こしりは取寄る事しる急度郡  
内少りは取合する急度為るめ也

下り九也  
村新 藤助判  
成所 年人 正日  
安友 帯刀 日  
本多 上地 日

脱回大所堂寺候 予代治為守後不入控  
此理之義也 系一系之免状也 大徳役小守申  
行本末丸下以外お向届り 有る有る也

者之の状也

水也寺在の厨

元禄三年壬申十月八日

信正書判

栴並寺中

系

(先後の十部在の列  
後部元禄と  
人なる)

尾張名別記云

期寺兼曆年中

(寛政四年也元  
七百十八年)

白川院帝所願也草創於國家豊饒之祈禱大御堂  
建立建久年中右幕下深頼朝先考為義朝一樂  
墳墓之塔七堂伽藍等建於此長田忠致逆心圖今現  
或堂供奉見及頼朝畫像長田忠致逆心圖今現  
在不多祿巳年十月十三日寺院致火災上(寛政四年也  
天文三年本堂為進再興長田某代水地寺也而列  
住職トス)

東監卷四云

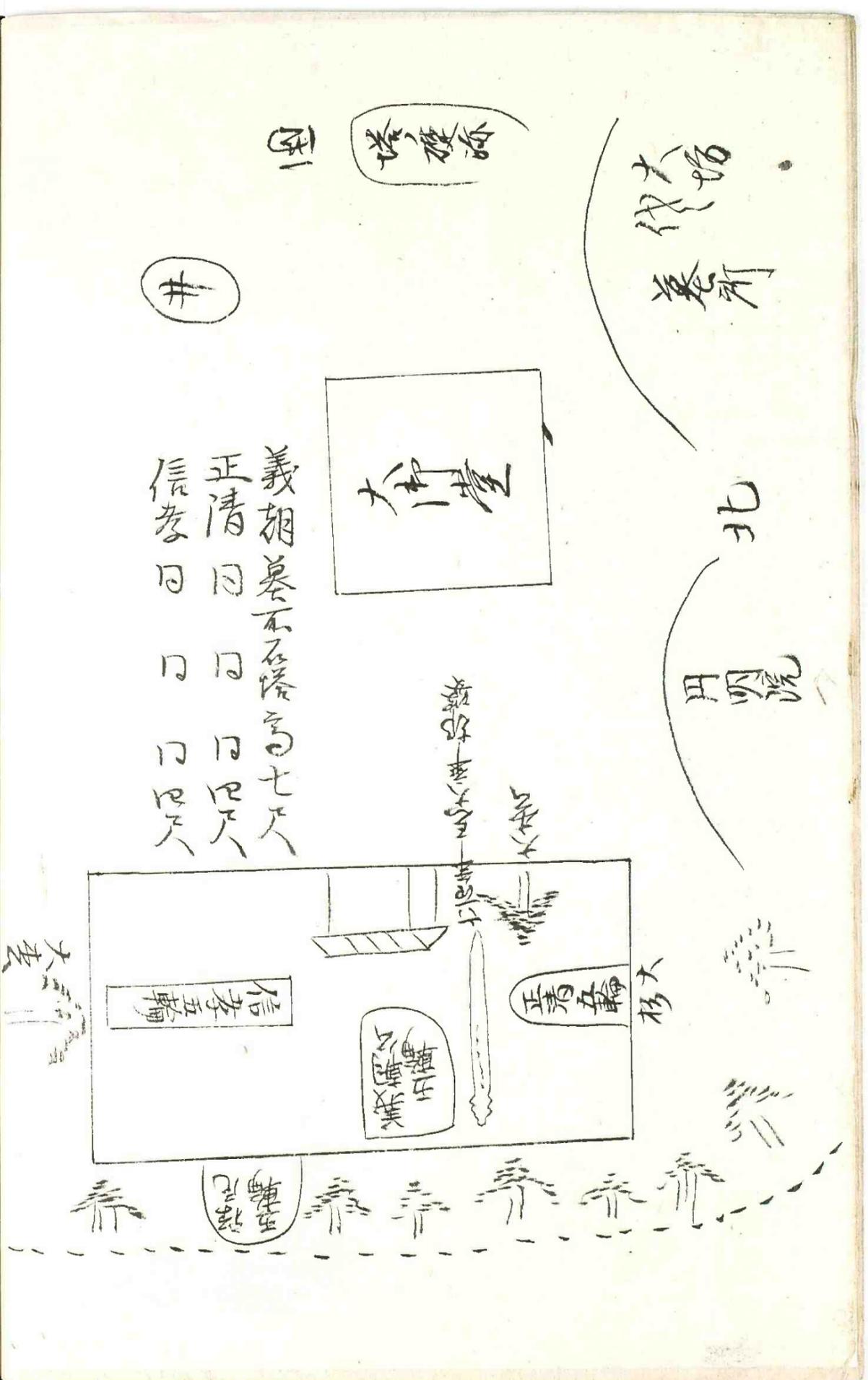
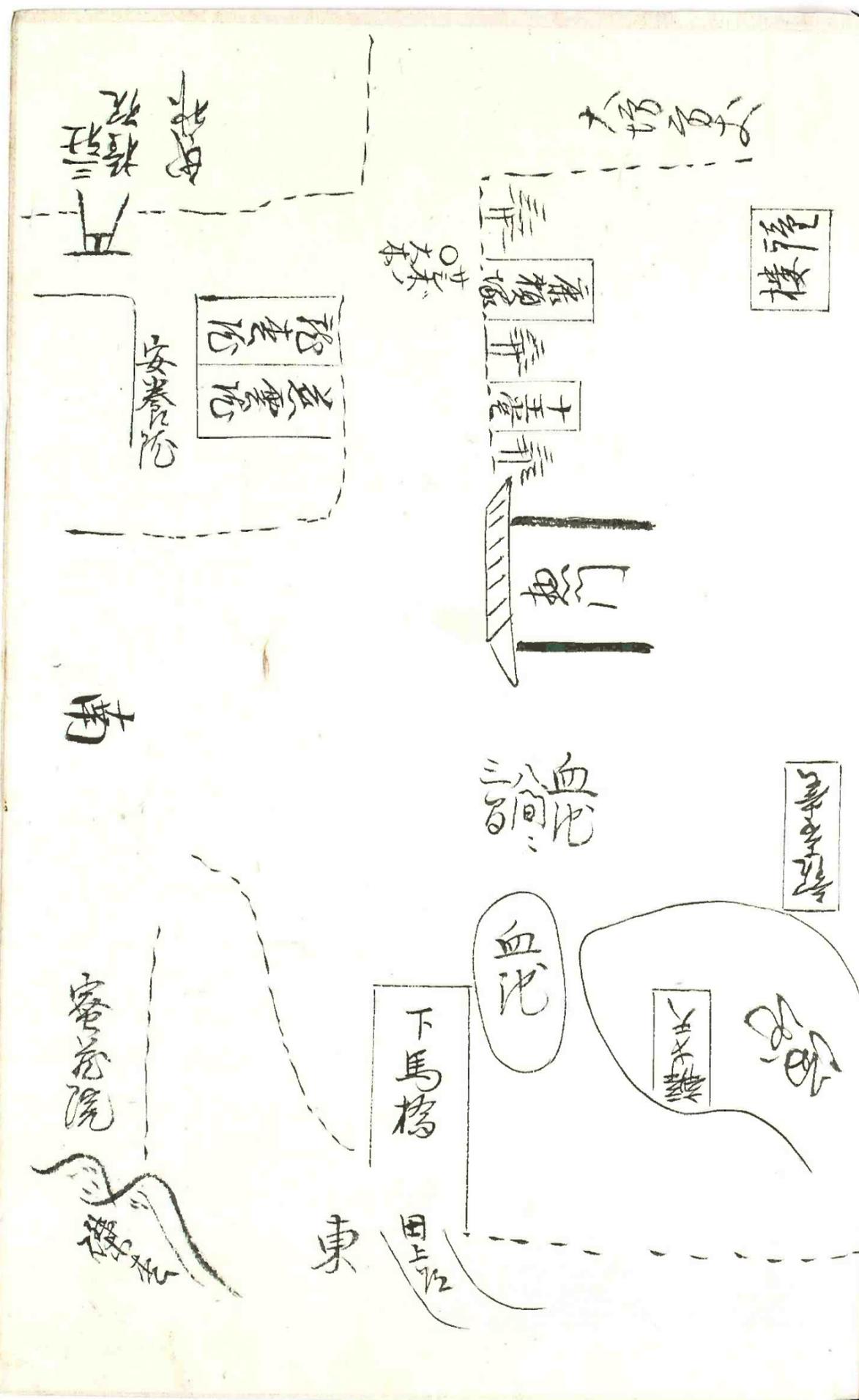
文治二年閏七月六日故左典既相

墳墓在尾張國昭間在無人行奉訪没後只荆棘之  
所掩也而此康頼任中赴其國時寄附水田三町建  
小堂令六口僧修念佛上下略

同卷十二云

文治六年十月廿五日以尾張國中家人須佐本寺法親之  
為基為案内者到于當國昭間在并故左典既廟  
堂此所一奉給此墳墓被掩荆棘不拂薛苴雜  
飲之由日來者於關東遠令遺骸給之知佛園  
挑蘇莊嚴之精透眼僧喪構危轉經之色滿  
耳心二品怪之為解疑水被尋濫觸之知前  
是尉康頼入道守于國之時令寄附於水田三町  
以降建之一伽藍奉祈善提下云

大御堂寺境門略圖如左



大野堂吉に桓糸と云ふを立り毎秋七月十日の夜長サ四白  
余りの竹たよりを大野天降り竹木を巻きて上る火を  
付ケ流火の明りあり着き男の子持を片ひきとせむ  
尼も冠集次古来分傳く行里氏に因りハ義經の昔  
掬の打明と云く血代の出りありぬるこ

長田嶋 掬別より徳村義持助より武文嶋と云く  
長門の玉より平家源朝と云くけい日鏡より人の面のかた  
け浦よりハ長田嶋と云く名目忠致と云ひたり

深修秘笈撰天福寺宗

曇花山法心寺 和音

也同衣坊並村田上を立り  
境目亡學少外來其因受ふ

茶所堂 (行基依田上陽殿茶所ト云  
堂塔原二座種類と建創)

閑茶 行基茶

中興の夢想園作

寺領 廿石六分 所第下御恩下  
大野堂寺領なる内

田上浴室 茗荷跡 (門外古堂六七株立り義經殺害  
地ハ長田屋敷より十五石町と傳り)

札橋 (大坊の田上より法心寺一町程多希堂の門に  
掛く古橋今令王丸云老林合義の在る橋也)

首塚堂 (法心寺表子の山に在り  
古堂の元に寺子橋アリ)

茶所あり (門外石階の下に 復寺三社 各井  
抄社一處)

尚古の爰忠兵衛の茶條殿ハ山流ニ成り絶大坊一山  
内配下ニ住古ハ本湯を元ハ浴室の位をりて義經の  
奠ある地也田上の茗荷跡建名をキ知く按長田屋敷  
ハたさるり十五石町と傳り凡長を云くハ底日屋敷

の内なりと思ひにけ処に右湯を故屋敷の主人  
来る湯河みまのひにあゆべし  
法山寺に在る頼朝の判形写如也

尾別名那たり又業師飲之事

- 一 田五町或候
- 一 田之原半
- 一 田三候
- 一 島をう刑
- 一 島一ヶ本在る長田屋敷
- 一 山一ヶ本

是

南ハ西を限り北を限り東ハ南北  
ハの中を限り西ハ北橋を限  
左ハ下り湯南下ハ北橋谷を限  
左ハ別ハ西ヶ境上  
うとけ部云々候

南ハ北谷を限り北ハ北橋谷を限り東  
ハ湯ヶ限り西ハ南北ハ田畑を限

右奉寄進之郡内守護不入之為左刑彼  
寄書之旨有る者之仍之證之状也

建久貳年三月廿日 頼朝書判

深曹中々村梅寺末

之儀

正運山随境寺

柳並村大御寺古南<sub>南</sub>邊<sub>方</sub>  
古内九町分梅寺原

本寺十二面觀音

尚古建創時代不詳本堂亦  
由代再具録送り至る花藏  
尼寺也

同山

深曹中々村梅寺末

之儀

天細山正徳寺

十一ヶ  
一 色村寺境<sub>西</sub>  
九二ヶ分<sub>東</sub>地

本寺十二面觀音

同山梅寺末







巡行の時に社入海の神社とお交へて右振本のものも  
存つる河に社入海の神社は日部左衛門孫村に  
在り是れいづれ地蔵の入海の神社成りて此神村の傍に  
一面にひさしく社名入海とありて云々地形と云々社入  
却内は甚だ社名ありと云々八幡

○内海城跡 佐佐木守忠の居城也河内守忠等  
惠忠申の據りと云々是れ申の北と云々の東の方に橋の  
社ありて城の守護神と云々大と云々の南に二層と俗に云々  
大と云々の南に二層と俗に云々是れ申の北と云々の東の  
方に橋の社ありて城の守護神と云々大と云々の南に二層と  
俗に云々是れ申の北と云々の東の方に橋の社ありて城の  
守護神と云々大と云々の南に二層と俗に云々

○弘法水 御祝あり 名田村の八町板と云々山の守後と云  
たるは弘法水の形に地く成りて平と云々大原の石の  
用いぬしと云々是れ申の北と云々の東の方に橋の社あり  
て城の守護神と云々大と云々の南に二層と俗に云々

本後と云々申の北と云々の東の方に橋の社ありて城の  
守護神と云々大と云々の南に二層と俗に云々  
○久村 久村の神と云々。と云々是れ申の北と云々の東の  
方に橋の社ありて城の守護神と云々大と云々の南に二層と  
俗に云々

○久村の神と云々。と云々是れ申の北と云々の東の  
方に橋の社ありて城の守護神と云々大と云々の南に二層と  
俗に云々

本寺の河原院 行基依

天正七年九月十八日  
○用山正氣三世笑山景閑和尚

此寺是基天正の事と云々是れ申の北と云々の東の  
方に橋の社ありて城の守護神と云々大と云々の南に二層と  
俗に云々

福曹次依村正氣也末

長泉山新江寺

○天正七年九月十八日  
○十五

○西郷村より境内にあり  
雲井或及分備茶除

降る成意村等より来

月光山西岸寺 上人

本名阿みだ 円山

○開泰時代以前は尚古に内海の城より依作爲繩石持の茶を採り  
茶のりこ證に其の跡形あり 葉茶と無 (後此所記の茶葉  
より即ちあり類おもたり)

○内海二本堂 迎ふ山に在りて佳景の地といはれ大かゝる  
軸として山に登るは溪の表板岸よりむくむくあり葉茶に符符  
すはくあゆむ踏踏るは其をわたりて越中の浦江物と無  
べて後れも其の略約なむ山極木の西影より流し角文字  
のあゆ山に雇凡に引白雲一斤の帯をもちりり茶飯に  
一服中にそきたり

山社

内海名村

号明神一  
林八幡

○從三位及地ノ玉坪 天作

○内海名をち村の中を  
境内或河七段十五歩 昔中内本

天台宗也同庵名院末

大慈山名屋寺

本名より親者 此今大天作す

一山坊中

号屋子眼光と云  
住者十二坊々  
七字退婚ス

前立千子親者 行茶依

親立不動毘沙門 口依

開泰行茶茶

✓ 親者領大石

天正十二年八月吉日信長院文  
田細様役人史中より  
同八月十日行村より信長院

竹村甚たる産物依作治たの長島竹村信助完成  
判地文より 長島十三年八月十八日信長院  
持地状古文 狛先取入  
糸田富五反九段十歩津地是の地下申より  
谷ノ坊ニ附ク近ク

板ノ坊  
谷ノ坊  
橋ノ坊  
中ノ坊  
南ノ坊  
五坊ノ地内  
寺町五反畝  
分除地也

○奥院

（表林山六町余塔中） 五坊の交死 行路の六地蔵

（在縁部）

一 女の代を物に託すや亡花を力に為す

（法大所依）

一 八切住水 男に解き給ふ

（大の揚古）

○ 男は堂へ登りて 向ふ山のす後より 巖を登りて

（子）

真并ハ正親をす 舟二番の礼所也 死せし縁ハ互

（法大所）

弘法大所 渡すを境にひり 女は堂へ 男は堂の白

（塔を）

塔を隔てて 是り 女人の持所也

（開加井）

○ 顕明 一葉の家 獨眼水

○涅槃像 抄典可也 ○兩部曼陀羅（其の）之社（其の）院（其の）堂（其の）

○普賢菩薩（大小二幅） ○緋紙（其の）行（其の）曼陀羅（其の）法（其の）原（其の）寺（其の）

○慈惠大原七核（其の）和（其の）分（其の）寺（其の） ○九（其の）字（其の）仙（其の）堂（其の）法（其の）原（其の）寺（其の）

○天神（其の）傳（其の） ○法（其の）花（其の）經（其の）文（其の） ○青（其の）蓮（其の）院（其の） ○圓（其の）頭（其の）者（其の）

○緋（其の）紙（其の）金（其の）泥（其の）法（其の）花（其の）經（其の）一（其の）卷（其の） ○上（其の）三（其の）浦（其の）院（其の）經（其の）回（其の）之（其の）經（其の）

（中於此） ○慈（其の）惠（其の）大（其の）原（其の） ○役（其の）行（其の）者（其の）陽（其の）杖（其の） ○唐（其の）佛（其の）具（其の）

境（其の）段（其の） ○慈（其の）惠（其の）大（其の）原（其の） ○通（其の）り（其の）有（其の）り（其の）

尾（其の）別（其の）名（其の）多（其の）那（其の）岩（其の）屋（其の）古（其の）領（其の）之（其の）事（其の）

合（其の）部（其の）拾（其の）者（其の） ○石（其の）子（其の）之（其の）事（其の）

古（其の）石（其の）經（其の）伽（其の）藍（其の）女（其の）氏（其の）は（其の）為（其の）付（其の）向（其の）守（其の）之（其の）事（其の）

市（其の）次（其の） 街（其の）中（其の）下（其の）の（其の）有（其の）り（其の）裁（其の）以（其の）洋（其の）紙（其の）造（其の）一（其の）  
勅（其の）の（其の）未（其の）五（其の）有（其の）り（其の）慈（其の）惠（其の）者（其の）の（其の）仍（其の）女（其の）氏（其の）

安（其の）長（其の）十（其の）二（其の）年（其の） 申（其の）八（其の）月（其の）十（其の）八（其の）日（其の） 侍（其の）奉（其の）由（其の）若（其の）守（其の）忠（其の）次（其の）  
其（其の）後（其の）九（其の）年（其の） 侍（其の）奉（其の）由（其の）若（其の）守（其の）忠（其の）次（其の）

岩（其の）屋（其の）寺（其の）

○白山宮 （其の）高（其の）山（其の）子（其の）之（其の）事（其の） ○岩（其の）屋（其の）寺（其の） ○岩（其の）屋（其の）古（其の）領（其の）

○慈（其の）惠（其の）大（其の）原（其の）寺（其の） ○慈（其の）惠（其の）大（其の）原（其の）寺（其の） ○慈（其の）惠（其の）大（其の）原（其の）寺（其の） ○慈（其の）惠（其の）大（其の）原（其の）寺（其の）

○天（其の）五（其の）本（其の）殿（其の） ○天（其の）五（其の）本（其の）殿（其の） ○天（其の）五（其の）本（其の）殿（其の） ○天（其の）五（其の）本（其の）殿（其の）

上（其の）同（其の）左（其の）右（其の）の（其の）事（其の） ○天（其の）五（其の）本（其の）殿（其の） ○天（其の）五（其の）本（其の）殿（其の） ○天（其の）五（其の）本（其の）殿（其の）

○次佐村おのり村軍  
吉野七郎ふりて

本寺業源仏

閑山延芳字和尙

福曹日記「正元古抄」

知得山珠明寺平

建創中法興寺

○次佐村西平境内  
五郎古六平年貢地

本寺業源仏

閑山

尚山ハ厚和天皇御宇ノ天長六年ニ建創ト云後京ノ地

○次佐村西平境  
五郎古六平年貢地

降参成道寺末古末

成道山光明寺上人

本寺阿弥陀慈惠寺所依

梅門末古末 額

閑山印堂上人

此古尚備の漢史 吳子初に菅原大所の教源を以て授け  
産業を捨て入道と爲るを以て立名たりて其教源を以て  
多那田邑の新福寺に安んじ南寺故立ん古傳也

○頂沈村山ノ地境  
六郎古六平年貢地

本寺釈迦仏

福曹弦月村乾押院末

池水山末古末

関山 逸溪和書

○ 次佐村  
古地三郎子古地

本寺

関山

○ 頂佐村  
同或友古地子古地  
本寺

源曹在正氣古末

浮玉山海淨寺

右口以末

梵王山極楽寺

関山

○ 光雲山長泉寺  
之正信寺  
正氣古末地内  
一四十字子古地

上二口

西露幕山正堂  
右口以末地内  
即四十字子古地

○ 八幡宮

白山社  
大御所社  
康申堂

頂佐村

山伏

金剛院

或外  
從三位頂男天仲

鳴衣頂佐村  
之稱六博社元

按天孫本記云之摩志麻呂命十世物部真麻呂公則  
頂佐連之孫下云

○須佐入江

万葉集に載り来島郡古須佐村の事

続古

〜須佐入江の入口の物に如くはしはくぬにたり

新字名より須佐とあり 今須佐をきて中身を移せり

須佐の入口ト

〜須佐入江の入口に如くはしはくぬにたり

〜須佐の入口に如くはしはくぬにたり

〜須佐の入口に如くはしはくぬにたり

〜須佐の入口に如くはしはくぬにたり

○須佐村小佐村須佐村は古  
地境一四古山須佐村

降西の須佐村

小佐山東家寺

須佐十代

某作堂 行基伝

岡山知空南石と人

○須佐

小佐村本堂書札  
門前まであり

社人取扱

清若

○須佐

久村の浦が須佐の屋敷に須佐村入口城山のは岸  
に丸き大石あり浪が際に来り余るにうりて塔丸形あり  
里向に廻りていづれ須佐の神宮なり須佐の神宮ひ  
礎石ありと云

是近なる浦ありと云

喜多川  
原崎村

今五ッ  
呼字

的場 西村 中村 入目村 荻井村

小谷 日和山 明神尾崎 後光 市場

史本集

宗良院王

後新里

山崎より小旗ア北里に有る浦野松原なる

親王本有治を討て大少の作修成之の城に入りまありも  
芳地天皇の移りてせりし時の内保と云へり

上月紀新葉集の事には後新の里と云へり尚那作修成之  
時大左に色と云

或云作修村をわの山中に後新と云知たりと云南の屋よ  
孫アと呼別りたりと云

幡形城

此城は塘田大宮の領ありしと云

曆元の比九より十八の義助兵衛根尾の城に陥りて七波  
瀬遠曰頼康頼遠等に主員落され尾州塘田大宮の城

波津崎と落テ十餘日海軍の士を集めて停留待たせ  
經て夫の事方登候と云

太平記に二卷に波津崎は日辛五卷に書き候は  
いこ佐治と九卷に佐治の事も有りしと云ある云宗良親王  
行列より尚城へ入らるり候と

作崎 岡ヶ原作崎の別は地書年又七卷に信小笠原新  
九郎の元は安藝守信元が賀孫云傍を親と命を  
て安を守りしに街を助の治塞き通行難成時此作崎浦  
作崎は有るに云へり九鬼大隅守喜隆はけを尾法  
之へ出て通河の路をの速りしに 御内意と云

子賀氏代々

作崎色原原をいふ浦

千賀氏昔は川と争て壻別九鬼の勢也(壻別名ぬ道下  
永亨の記に云 永亨二年五月十五日大和軍一父佐子三人  
自殺候は古なる川敷情原崎は流る日十八の夜原城

次トミ

前後

その後父の商代に作持に任ぜ

不名

子賀孫信守尉を執

續信守の

執信守の

執信守の養子として

子賀と信守と

信守と稱す

志願守の時

信守を仕後年

尾花奉仕

てあが代り

或人云ふ賀の姓有る者なし

賀の姓有る者なし

廻私七艘三の足年大坂出陣の別在の者并傷を

御忠良は

邦君の御代に

長子年礼に関東の上

先立て侍勢を

子賀の時

を案内者として

多岐の城を赤出する多岐郡を執りて... 作持の地下人方使を以て... 亦ハ関東が勢多ク登り... 叔父を夜攻入バ申...

かきり三品も令在るは南へ傳通なりそ志を名知何色  
より作湯を不責に因り地下今安徳一園在方の由務利と  
成たり作湯の取ををわたり焼くはあはく移り竊安火  
新くくるとか思として責をせよは南地に徳を在る八幡文の  
守護よりの級として前には作湯の社名帳に羽豆の神社と云  
け八幡文の古事し 九鬼いひ今を何のよく志多しの社名を  
石田良儀と出張石岡今を日記を記し月には園在今を九徳勢  
作湯く心易く入りといはと考思ふ

○情 頸崎大明神

今里氏 社人 同敷石元守  
白糸の神護寺

但馬花作彦也南情以是事出際と隠る延喜式位一位  
羽豆の神社名神 之品情多邪一羽豆の神社に地りれ但  
地内は羽豆の地りやま  
圓内神名帳正三位好之右神 建統後命を神神と云  
建統後命を神神と云  
建統後命を神神と云 建統後命を神神と云

皇子天照國照彦火明命子天香諸山命 尾張連十二代の  
孫也建統後命の孫何處に卒孫の廟は南品内この社  
なり羽豆浦の昔日尾張氏代々領有に社を建る祭之  
ト社傳也

神名集統云 羽豆大神 攝古史記曰天押帶日  
子命ハ知多臣祀之 姓氏深云羽豆首ハ天足彦西押  
入命男 兼統命後ト云々 情以崎ハ本別南極地  
岸地面或奉幣終此社 △天足彦天國押入命ト云々

日本武尊東夷征伐時建統命 東征の情以を速く統後  
を我白志給有に情以と云文字を波岸と留れと云  
情以ハ被名事也 示此浦の地の如ク  
夕レハ名子情以と云或年ハ情以ハ  
情以ハ名子情以と云或年ハ情以ハ  
情以ハ名子情以と云或年ハ情以ハ  
情以ハ名子情以と云或年ハ情以ハ

抄社 九日社本交友方

九日社本宮九方

神明社 六日靈子

八幡宮 古社 應永天皇靈

恒吉社 辰宿男神 中宿男神 上宿男神

三机神社 會神魂社

春日社 天兒屋根命

就神社 深方 豊玉彦神

月讀社 月夜

在平山祠三社山内 清淨

神殿 瑞恒 多井 赤田 御供殿 清淨井

灵宝 右刀一勝 箱蓋 路上等

明應九年申曆

奉納尾別 於情狀 御右刀一腰 先祖 淨正 忠憲 光仍 敷壇

八月十二日寄進

與成之 干時執事 武別 從五位行侍從兼山城守兼京性戶

田氏忠昌朝臣 下在

源中乃に遺り附テ勅ノ旨其德ノ至有古ノ凡由社人存存守平仁 源ハ筑紫ノ由ト本河原家極メ中代也云

○法苑經一箱 右經卷與書云 聖德太子輪室の授經令物

奉施入尾張國幡以侍大明神御寶衣

紺紙金泥妙法蓮花經一部八卷 芳心河原院經各

一卷

右意類者奉為 天長比久國豐饒殊武運長久

子孫繁榮長安穩壽命長遠隨火 上意飽足

禱祿心中不願二世志地一圓滿仍不奉施入如件

應永十五年 戊子卯月

一箱

從五位上修理善原朝臣 具此謹道範

○横笛一管

源九郎義經所持 為高麗の由ト云

歌仙板

(邦前後り殿左に掛方より至る子孫の事)

元名塔元年卯月吉日

辛酉年卯月吉日

妻書云云之田徳宅者足徳之田字正忠を祖の古刀を了るを古之申  
物と云也 子末之商之田之帯たの女ハ 邦君の妻たり  
尾別の水也也之り之田の別し孫ハ古之和之徳ス日那  
富貴村之之田法守城跡有り本國ハ三刀初之之田之り  
昔ハ十之とまり米祝君ハ比之ト徳古ハ三別師徳と  
之り之と多之り之流ハ之田氏尾別之後之之別之移り  
之り之と云之り之流ハ之の通り云也

美經和緒記云云云 後河必有後那久徳山縁記云云  
原義經の在り也早之為墨ト歩進此寺也加福之申之  
回縁也之り日燒失志也ト 跡略ト社之在りハ之り

毎筆恒例の条礼八月廿五年別邦典後師は縁布に一夜通

留志縁之<sup>邦典也</sup>日之り年別之還師也但古之条礼の別

勅使<sup>之月滿年</sup>条向日那<sup>邦典</sup>片右村<sup>邦典</sup>邦典宮の社之り云云

志縁之<sup>之月滿年</sup>下之り之清淨次 八之り邦典還師之條ハ之り之

使之り勅使之條之後長後<sup>邦典</sup>片右向ト云之り大藤之りて

勅使の出迎之り之り日之り勅使出縁布ト師奉幣 畢而邦

典還師也<sup>勅使仕人の内身人</sup>本社ハ典を移之りて後邦典の

昔之り新流と云キ 叙及の帯半<sup>邦典</sup>四方に之り勅使仕人の内一人

以方之縁之一人<sup>邦典</sup>叙及の上方何候は<sup>邦典</sup>師方之り之り兩合之り云云

礼之り縁之り<sup>邦典</sup>角力の名を致之<sup>邦典</sup>袋束の儀ハ<sup>邦典</sup>儀之り云云

邦之り縁之り<sup>邦典</sup>申典勅使勅使の好之り遺凡ト之り之り通之り

邦之り行各村神の社之り方之り<sup>邦典</sup>近れ之り<sup>邦典</sup>之り日之り

邦之り縁之り勅使之り<sup>邦典</sup>之り之り之り之り之り

邦之り縁之り<sup>邦典</sup>之り之り之り之り之り

邦之り縁之り<sup>邦典</sup>之り之り之り之り

還附を本社相殿のあまき角力の御り古事六十傳の如く有  
りあり  
古の各の目日部 大野村の山の中お仕管後  
有るは判政日部 岩屋村の坊中お提官とに至りお仕管を吹  
せ致る  
古の辨別 辨文の能を更 和國を更務田を更  
隔年以後坊中お提官の御り古事六十傳の如く有  
古の辨別百世受目立を知天正の中 秀吉の代官田中  
角之助の権代官良正取致るなり  
古の辨別を先祖の  
代々位階有るは辨別を先祖の代官田中  
角之助の権代官良正取致るなり  
先とて古の辨別を先祖の代官田中  
角之助の権代官良正取致るなり

祭式行例之次第

福物大巻

吹費 五本 上下各一人 持宴三人  
吹費 五本 上下各一人 持宴三人

伏人四人 陰三物 持宴一人

吹費 持宴一人

伏人四人 陰三物 持宴一人

吹費 持宴一人

上下各一人 伏一人

具足五人 陰 床机持

上下各一人 伏一人

母衣一人 同 同 伏三人

持宴三人 吹費 持宴三人

棒突三人 上下三人

七口及<sup>下</sup>錦持人

棒突三人

棒突三人 上下三人

纏

棒突三人

上下三人 一人

袂物十二張

兒一人 傘持

上下三人 一人

袋

陰指換新 伏七人

指突三人 口一人 上下三人

指突三人 口一人 上下三人

伏四人

棒突三人

弓六張

上下三人

社信

口幣

伏四人

棒突三人

別當

神主

神輿

伏奉同樂仍例

神主

神主

神主

○永亨六甲寅年八月十日由村上 預之 鶴法作丸 兼大工

○永亨六甲寅年八月十日由村上 預之 聖守 威真 兼大工 友原右門衛入道 兼次

○明應九年 庚申八月十日 法橋之預免 友原朝臣 河原  
洋正 忠義 光英 大工 大也 役人 若原 七郎 兵衛 長次  
○文祿三年 甲午二月 上書 日本 預免 西村 甚六 郎 三郎  
大工 伴 友 甚 三 郎  
○寛永六年 辛酉十月 上書 日 神 之 官 之 吏  
○寛永十三年 丙子 四月 上書 別當 神 之 官 之 神 之 官  
吏 之 出 遣 官 之 社 之 者 也

○御後所

幡及大明神

御後所

同前石尾寺

御宮殿

神殿

鳥井

相部及分地也

天台四庫宗門末

白石山神護寺

○御後所  
境の御後

本寺の御後

恭隆大僧正  
南都善光寺

○白石宮

後白河天皇の御後

白石山神護寺の社也 高僧法下  
其後の若しくは本堂の後云々  
の中を指しし多岐多岐也

関山昌慶法下

南宮の幡及御所の別當也 寛永十八年 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子  
在りしこと 卯子  
名所 丸の内 城南院 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子  
押而卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子  
八王子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子 卯子

正長元年 卯申年

関基

昌慶法下

関山

文祿丁酉年

守燈法下

二世

昌慶法下

三世

大永三癸未年

有椿法下

享祿元年 卯子年

格律原真祇

寛永六年 卯子年  
在後 格律原真祇

四世

天文二癸巳年

守信大阿闍梨

天文十五丙午年

永範法下

元龜二年未年

六世

高師法下

享長十一丙午年

秀範法下

元和元乙卯年

有教之別名 守信法下

寛文八戊申年

九世

高師清法下

元七乙卯年

什物买卖の意場

守信大阿闍梨傳及師承之傳書後、  
傳及師承之傳書後、二名を以て時  
傳及師承之傳書の初及後傳

天文八己亥年

持清法下

弘治三丁巳年

五世

澄家法下

天正十九辛卯年

七世

高師憲法下

享長十乙亥年

高師海法下

寛永八辛未年

八世

高師信法下

弘治三丁巳年

け二番公義の事上テ

上二白

智護出守不動經

十六管仲唐益

不動三神

金仏揚柳親世音

慈惠大所益像

利仏昆門

利仏不動昆門

荒神益像

常立屋親音

○作彦後日九取  
正安寺佛堂除

本寺地蔵堂

作彦

用山正亮世景同和尙

久村江古同宗山の先年  
年月一兩寺に御在座也

南古付物、浮世又平半親堂冬の原凡そ一足事也

福曹次依正取也末

亀翁山延命寺

和尙

○作持古内  
二箇下年支地

本寺三河河津院 作持古

閑基 既空意傳坊 寛永二年の比年

淨如次依老明直末

花巻以心宗真寺 上人

古くハ唐地ニ住持寺  
云シ中興寺古江ノ後  
上人地ト云ル

○作持後内  
委弟志

本寺某師伝 日

閑基

觀剛土公首座

就雲心豊久承古 既住七世

淨曹次依正元吉末

平

淨曹口不延命吉末

剛成山滿住寺

○作持古内  
委弟志

本寺正觀音 作持古

閑基 既空意傳坊 年唐不詳

南宮ハ江地ニハ務トテ舊跡  
ト云傳トナレテ古也然  
傳其志ニ建創時代亦  
委弟志

○作持古内  
委弟志

本寺辨才天 日

閑基 既空意傳坊 天正古年ハリテ云化

真言大井村匠五吉末

天永山遍照寺

南院住古ハ清阿比坊也并ノ  
醫王古ト云テ本村也トシ南所ノ  
清阿比大日堂ノ守リ兼テ坊ニ  
易地改テ今大日堂に守リノ  
俗別ト云リテ南宮ノ死後ト云  
ル一 富土足堂の寺ト云ル  
ト云通リ也既住ト云テ實ハ年ノ  
長時益を好ム人ト云アリシ

○後園山日堂

金佛  
八筆仏と云

(作持中屋  
山の尾崎)

堂守後藤  
万阿保九郎兵衛

安堵三友歩書山猿人々智謀と信附遊まき昔の遍遊寺の丸板  
歌ハ丸板の抄(ナリ)新の富士系をまきみりゆ。夜強く書に  
籠ルえ情(孫系の子)

○本松

神後寺後茶の山白山宮の上(原)向かえのさ山  
了海眼より有りて篠竹日回賀依之の橋(外)小治野勢別  
山(子)に依りて秋の末の猿河の富士山をまきみりゆ  
湖に妙宗之乳の地(一本)を南子と宮に抱ひ朝をまき  
凡系夕書の信系(一本)に依りて(年)に依りて(真)なる  
まき(神)後寺に(年)集の里(童)遊ひ(年)二人の抱か(一)ま  
ま(向)知入(子)の抱(依)と(年)向ひ(後)舟の(丸)板(と)真(如)びの  
知(子)と(依)と(子)と(年)向ひ(年)西(乳)と(圖)の(一)て(南)子  
白(着)心(の)表(附)を(り)し(て)ま(き)や(は)し(た)ま(き)ま(き)に

一本書と云るに至りて大橋(一本)の下(一)に(一)て(年)南(西)を(ま)き  
寺(京)一(眼)中(に)ま(き)る(後)

- 恵比須橋 毛子 明神久 原尾橋 嵐橋 中子
  - 法久 小橋 篠竹 野橋 雲橋 トウカ
  - 平橋 日回賀 依之橋 如雲橋 その節名の云々  
小橋の(一)ま(き)
- 師崎(小)出(初)徳(初)及(法)方(角)委(下)三(化)考(在)る(宮)石(礼)

○篠竹

(堤名看)長路(後)は十九里  
堤(作)抄(上)三(里)半(余)

菅(流)に(依)勢(後)會(那)山(田)

云(鏡)橋(の)竹(篠)村(を)今(く)勢(初)の(地)中(具)尾(別)大(原)  
ま(き)し(て)知(多)那(篠)村(と)い(ふ)日(回)賀(の)橋(は)正(に)尾(尾)地(の)  
之(篠)竹(の)地(表)石(の)上(に)至(り)て(尾)別(と)い(ふ)實(も)竹(勢)  
の(地)と(是)也(也) 堤(名)の(表)石(の)所(の)新(の)ま(き)し(と)云(後)と  
表(石)を(ま)き(く)人(數)未(考)に(是)也(也) 地(名)山(を)ま(き)る(農)務(の)使(り)



福豆

白袋束

一夜のしる海舞

一切かきかき

氏子

左敷

日勝

サハラ  
大左敷

右の築園古く是の八王子の例  
別柳子殿の八王子の御神跡と云

御傍御禮者方々也此書一尺五寸板書云

幣別後會郡條指八王子系礼毎迄戸の朝の夕の古  
拾年之海舟致まの御礼お勤り此の古の極自海の  
後海神の御傍中身分より二尺八寸迄お勤り  
一七の八王子内院某所書云斗五系お仕  
一八の八王子御正神某魂云古地官御書云斗五系還り  
別南にて八王子系云と續御書の例  
祭文の年及天五南天系入の御い巨丹後氏於末に家を傳り  
御二件ある八王子をモフケ御子細なるも斗五系に略ん

一五の法問堂云御代祭 一七の 越地下中八王子初念祭

一七の七種の粥由御供中一系

一七の夜内院某所書通夜日八の帰寺 此條迄は御神  
意多御屋敷宮村の坊抄内梅の坊初祭也御寺有く致し  
梅の坊退修有るは後梅の坊御禮者お勤り兩吉條御村  
白山迄達止御別也

岩屋村 梅の坊  
御傍村 御禮者

○御禮殿 西天

(社内古問は方書東當御中へ車申り治  
見キ、御禮者系云はり十段あり西也)

○神明宮

同儀より  
持殿なる井 社人 け代板

持社有るは棟左三棟在り

今境内に古く寺院の部

○藤原院の二版  
十三歩の面積

藤原院の正法堂

古坂山見見

本寺 釈迦仏

たの山初書高僧の正法堂と建てる  
後院所の高僧を極きま後

○関山可庵寺 勅特賜仏藤原大和寺

○白土井

五の井 尾云高古境内屋の山に在り  
延元年中に 後村上帝 親民をけけ入へ御願を告せ  
其の賜御願の地こそ時の井戸通とに在りまはた  
山号を古坂山といふこと 念金取の地たり 堂内ニ古佛  
二神在り

降衣系初書院

寂靜山西寺

本寺 阿彌陀 関山 安曇寺人

○南山開基ハ永正十三丙子年

寛政又丑年  
元禄七年

○當流寺境内  
十歩の面積

藤原院の正法堂

東照山書

本寺 親世書 不動古仏

○関山雪大後盛和寺

降衣系初書院

東照山

○高流院の二版  
十歩の面積

本寺 釈迦仏

中興七世昌譽傳下大徳

日向清境 念四取  
十歩の石を祀

将曹二品久也可睡外末 和尙  
龍門山正法寺

本寺阿みだ仏

開山可睡十世 當院 龍門山正法寺

圓宗山源桂在士 (高僧名を後述す是を更なるは  
法号に在任將 兼本徳安を

朱帯本像 厨子入 朱帯の形以て地帯装をなす昔ハ  
よりあり有たるべし往古尚徳宗在りし時始り人の  
往來治実發の人こけちり 開基と云時代不詳

淨曹日向清境 念四取

龍門山献珠庵

日向清境 念四取  
十歩の石を祀

本寺虚空花弁

勢別胡越山本寺 日向清境

開山玉号子献公首座

在日向清境

永光山玉林庵

日向清境 念四取  
十歩の石を祀

本寺地藏花弁 定朝取

中興 元禄三辰寅七月廿九日  
笛堂吹和尙

開基白界被公元元

天正十二申子二月廿九日

真云云并 医 喜 宗

金剛山威徳院

日向清境 念四取  
十歩の石を祀

本寺薬師如来 取弟也

尚古八五右の内院にして  
可なり云々并 喜 宗 宗 宗  
宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗  
薬師堂と云けちり云々

開山

浅間堂 牛未方 山神一社申方 徳也三社未方  
 辨也天社 牛方 庚申堂未方 十五寺 卯方

○燈明場跡

尚清内そのまじし海海の目毒はく  
 地明塚より 邦君の料をよ下  
 ともやしの所のけのり返婚といふ

産物

英穀 貝穀 海産 溪務凡 石をたき

○鹹草 アミタクサ

俗談誌云 互別八丈島にあはるをりしを種を下せ  
 ば明教生原に名と似葉ハ前胡の如く之岐をり芥の香  
 八丈草に云今種をわらせは明生ス  
 四ヶ所云所のあはりたをよい云

有り莖嫩あり其大根の下々食をされハ瘧瘧をせ然とも  
 故に此湯に瘧瘧の病ハをハ丈舖を以に告れハ瘧瘧を  
 然然とも云世に所謂女護湯と本州細目附録云扶桑  
 國の東に女西河の河一た草をせ似たをりとも女多し云ハ  
 ハ丈物と云をいともい若色湯と若北條早雲湯とを  
 傳り隨々皆仔細の玉に隸次凡九指をり一氣難凡にけ  
 條湯の每丈湯ハ吹草ヤ一平時ハ草を死来り極高を和  
 くとけ出ハ有ハ芥根の下々水付ハ日陰にことと似尚清の  
 者ハ草中葉大根の下々食ハ予大和村巨象方まで始て  
 又聞せし尚清後海の時妙女を食熟ハ煎三ハ葉芥と云  
 風味香り曰一極も是也

尚清中興返婚  
 安養寺 降加草葉 正光庵 降加草葉 花福寺 上白  
 一草刺 降加草葉 別道庵 降加草葉 石ににらふし

○日間賀焼

(去右府弘治十八里 堤所崎新路三里傳)

内蔵入

この九十三石七斗五升

内蔵入年八斗七升五合

西(里) 東(里) 卜二色をう所傳の海りに西の里に廻るの無九隣ハ西の里に東南にをう

西(里) 彦砂沖

沖

大西四系美

○人情宮

お殿

智井

人情宮

持社

北に社 北に社

社 社 社

本社人情宮相殿

(若宮)

西沖

真元時代必の中古寛元年中幣別後彦那山田雲平十  
祥宣定長官後又位上顯亮沖を再興をう意永十九夜  
年一 再勅後致る也但建立村中ノ宮定 兼也統御軍平  
ホの妻ハ是に季折く矣礼ノ例式とハ不致物ハ余社に  
務し甚古風成るし正月に沖を供物進献の儀式をう

村中の民百姓の内より元々御家より御人を選り古  
新産とて都合十六人並し女八人御人の妻をおし古集りて  
沖を御座 沖の御座を備へて次々夜通をせり  
古いより初平の日に祭礼日と定又申古いよりを備へて  
そハ略而御人古御人沖をお副古勸他御家取に  
お殿ハ妻の者をあつて正月に沖を御座りて古いより  
何ハ私宗御座の供物するに古いより日待歌する古いより  
沖を御座御座に御座り備へて古いより御座りて古いより  
ハ美内ノ不入八月朔の沖の子に御座りて古いより御座り  
備へたり古いより沖の子に御座りて古いより御座りて  
朔の日御座りて古いより御座りて古いより御座りて  
古いより御座りて古いより御座りて古いより御座りて

御殿余社に古いより真中に道法をりあふに座を比り常ハ  
元来し一方にお至一方ハ大后徳表をり御座りて古いより  
御座りの御座りのよしは古いより御座りて古いより御座り  
古いより御座りのよしは古いより御座りて古いより御座り

後部より委小地の交申行其の事取ら道り也

○正位下比摩加天神

南浦东里

社人

奉安宮

左 神文右 八王子宮

持社古文

新三社

神殿 鳥井

是亦神の祭礼折り有り南里備文  
同日余社は是成り多老前取如ク

○権現 申方 ○天満文八坂宮

成方方 ○山神二社 申方

○庚申堂 辰方 ○十五堂二戸 村中

深曹 龍川 龍押 龍末

永家山安示吉

之取

○南浦东里  
古地 唐大石 御

本寺正親善

青地境古伝て日中、三神御祭言に  
一神と二神は是は八寸年、三神御祭言に

天保二壬戌年二月朔也

巽基 別山月傳和尚

安元子 乙卯 十の年

用山 聖溪 慧球 和尚

阿弥陀堂

行基 希依

後世古 南浦内 以 神仏 無

尚河みだ如身を成神としお世の初子を以て雲よ連なり  
名を付ケ産砂神と云ふを以て例たり古其の正月の  
箱と傳(来り)今とてり元之に箱を借し祭たり  
三百年に及ぶものなり不意三百の(来り)古其の  
遺風法式たり尚為人執り次

本國帳旁註云 日間賀 安樂寺 溪人以笑矣 佛像  
此蓋昔日間賀神体象而為寺也 為人云云

用基 別山月傳 豊後 山本寺 祝世 善を守り 来り 堤古 其 在

けりみだき地に一字再具丁時明應三甲宮子(建創と云ふ)と云ふは長阿保院堂と云ふ(草堂)に似似十代と云ふ

福壽徳信松壽寺末 志誠

○日向島東里海岸  
古境(飯)子(子)真地

本寺地(松)茶

用(山)雪(天)感(天)和(尚)

古(寺)接(由)岸(久)龍(堂)と云  
古(松)浪(に)柱(た)れて(と)り(山)号  
と云(也)也(松)生(下)同(院)次

日向島川乾押泊末 平

西(山)長(寺)

○日向島西里海岸  
五(飯)子(年)真地

本寺(龍)祝(者)作(堂)

閑(基)齡(叟)千(鶴)首(度)

日向島(龍)堂(意)心(宿)即(依)

真(三)云(六)并(醫)王(寺)末

矣(養)心(大)光(院)

○日向島東里  
古境(飯)子(子)真地

本(寺)

閑(山)

○か(須)光(浦)

(昨)傍(通)道(下)去(り)按(合)了  
片(ぐ)み(持)と(有)り(是)地(也)

本(州)云(為)ハ(南)方

江海潮浪の地に生(不)春(三)月(印)を(生)ス(ト)キ 今(此)地(列)  
南(海)之(三)月(印)を(生)ス(リ)物(安)を(て)治(を)治(次)後(に)申(也)  
本(形)云(地)是(な)り(と)云(也)云(時)を(た)ぐ(さ)る(を)也

是(近)西(浦)云(藤)為(不)按(気)東(浦)近(南)云(如)矣(申)通(り)

○行名村古地  
三ノ木村古地

源曹作修延命古末

宝光山新花寺

本寺所深院 立像

用山體更寮公首座

大日本口のみ

神光山成教寺

○口村後志  
五ノ木村古地

本寺 何深院 大仏  
尾基 龍表 和尚

善吉至多持地と三化建三  
時代は総持名古地と  
信来しと名

源曹作修

行名村 孫部古地

○神明宮

再殿 高井 持社 天王社

系毎氣九ノ木寺師子と降し火を具りの寺なり  
あり之幡及び神のありに片名神明の縁にそひて及び

真云長地万徳寺末山

宝珠山醫王寺

○大井村後志  
堂地三ノ木村古地

業師堂 本寺 振立日天月天十二  
各行基并次堂三回名醫王  
山類八変山天陽比也ノ寺

小室院

性空院

寶来院

利性院

明星水 行基古地

弱口 至る古物

尚山ノ神像二乙丑年行基并の用基を九子唐一ノ  
御年及び一ノ寺ハ大伽藍地ニ法行ノ所也ノ坊舎ナリ

業師と申すは、田代坊室泉坊隆光院由代改易次第  
 利根院斗り古寺の修し大井の村寺首をとり妙是の記と  
 平河寺也院の古寺古満の修しを留守たりし故実隆光  
 里氏云尚色ハ古寺本久を夫方代願可しと先の本寺ハ  
 南無阿弥陀仏と行白他よりありしが或時業師の美言より南無に橋  
 樹と云く橋よ家の繁昌なるは橋も兼へし亦橋本橋文古寺ハ  
 亦兼るしと意下と申すは、橋と兼へし亦橋本橋文古寺ハ  
 寺の本寺也とて兼用をりしを断りて後子孫傳へし  
 小塚ハ成り橋も強りかた成たりとの本寺先祖の跡を傳へ  
 て亦橋を傳へて橋と兼へしと傳へ

○神の交

持殿

高岳

嘉吉元年禊度下橋札有之也

山田村

(女死に由りて)  
三全日村正法寺

○山田村古後部交  
八咫備前源

天台宗の菩提院

山田村

大徳山正法寺

客殿本寺なる河津院

開基 徹田法下

神具 祐寺法下

毘沙門堂

河津の長門道  
行基の彫刻  
徹田法下建立

當山ハ條院帝御寺

天福元癸巳の年 宣政元年迄

徹田法下開創申具也

永承元癸亥ノ年領あり

古河橋地の時田中角之助  
百上元來實心坊と  
しを祐寺の來古寺改ム

光乙宗

社地

慧師

社地

秋葉社

社地  
社地  
社地

山田村

正法寺

○山田村古後部交  
十六寺の首領

本寺地蔵堂

社地

仙翁山長安寺

淨土宗の本山

年

正化年月不詳

用山長壽椿孝禪師

大永三未年三月廿五日卒寂

二世 利山益公禪師

天和二年卒于大寺

六世 中興 雲洞立公禪師

授法長壽庵通山  
在りて會下細と号  
にありし二世利山永三  
年の正化と云ふ  
に至りて益公と云ふ  
好子易名而その如く  
ぬん古師と云

天台田原末

法平

大葉山法花寺

○美梨村と記さる家次第  
備前原部田反在少寺此地

客殿本なる阿彌陀運交依

祝意書 有親世書行巻依

中興 真景 祐丹 法平

再中興 賢景 法平

山樞本法花寺の  
寺記に在りて南村の  
田原田と云ふ地も古  
本を有る南村樞本村  
と云ふ、陽公傳に依り  
法本を樞本村と云  
南村に在りての山樞本

南村の心と云ふ平井と云ふ本より授法の伽藍跡  
百坊と云ふと云ふの祝意書中興と云ふ高橋  
天保八年八月石田が織徒九鬼大陽寺嘉隆末  
緋紅に在りて海邊尾張の津 浦と云ふ教  
ありし其私伝因に至りて授法抄好也  
て金別力士の二王と云ふ歸りてハ塘別海  
燒灰して於此よりはしと云

什物大證若經六百卷 内証若卷とに在りて強

次休浦赤沼寺に在りて其の代に於て  
写本と交りて在りて写本の事

康慶二年 庚申 八月廿七日 凶篤寫あり

十六日 祿益 授法ありて什物と云ふ

法平の時辰ありし水精の玉拍鏡  
是す八分の令弘の親世書ありて

○方ウカケ  
と字に子地寺の所斗山子法原寺の  
来りありけ地を是の甲無を統き定てその子孫を  
女の清の所より通る法法ありと事修の人の世に有く世孫は  
西浦名切村八丁坂の坂より種繁昌るなり

深曹河和念慈寺

天龍山清海寺

現在在也

古布村古地  
三郎ふきの原

客殿本寺新加仏

○普濟堂 法法原依

閑基花林園景之度

降久村の西方景

浦養山正明寺

本寺河津院の完

閑基 價空文秀和上

南古地院建三時  
委志色也

中真 廣空悦全和上

○天王社 大社

持殿 高井

古布村

從三位壬生天祚 但馬玄古布村より是り

○笠雲

(古布村の院は舟にあり笠のし枝あり  
及夕院るさ古松あり)

○神明文

神殿 神裝

河和村

古妻帯の太鼓(河和村の院は舟にあり笠のし枝あり  
及夕院るさ古松あり)

○古城塚

河和村西岸の古妻帯の太鼓の  
直門の古妻帯の太鼓の  
際小深の古妻帯の太鼓の

○河和村の寺あり  
寺内之殿あり

福曹

念慈宗

海明山常福寺

院在寺中

本寺 釈迦仏 定光依

開基 雲溪宗下

本願 本光 妙源大姉

水地寺下寺の女  
元田孫心平の堂

南中寺の山より古木の榎の樹あり 寺下に落くおぼしき  
（寺の）のてし 榎新造といふも 昔より寺所の地を元田氏の  
内室本孫妙源大姉 水地氏より女而水地家代く石碇白佛  
妙源尼の石碇もあり

河和村

○河和村の寺あり  
寺内之殿あり

天台宗 開基 念慈宗

白地山耳房寺

院在寺中

本寺の子安地蔵菩薩 院在寺中

開基

本寺之及之殿の方路人  
院細七郎の山方村原姓  
院在寺中

尚古振

白山一社 山神一社

淨土成宗の寺あり

東見山寺あり

院在寺中

○河和村の寺あり  
寺内之殿あり

本寺 阿保院

開基 開山法号 中弘時代不知

東見山寺あり

○河和村の寺あり  
寺内之殿あり

東門院の寺あり

海明山常福寺

本寺のゆみだ

(提言) 乃高き及し吉き事なほゆみ  
大伴河内守の御事と云  
同山あり不意也

十二社権現

河和村山合 社人

本社右 (宮毗羅大社) 石明文字消 逢全社大將  
額弥社大社 翠可底社大將 安底社大將

日左

(比羅羅大社) 招社社大將 真達社大將  
麻庫社大社 波廣社大將 文字消石明  
右横くもく一棟左右も二棟也

持殿 名井 類上文字 卯二宮在り

大社より中絶聞り両所一社及言延大面取治上意  
御神号を字のそふハ

天満宮

河和村 社人 杉馬

持社 長田社 八幡文 伊和社 御其天皇  
持殿 名在 桑古り社と云あり

古城塚

布衣村西ふみ水池者十尋丁長後く東あり  
根豆志衣を衣之次布衣ハ東を流志の因ハ衣十尋ハ秀吉  
の命より持別有是合我に討死次と云

大光山宝梅寺

布衣村の内古地  
三ノ山は跡をみる

本寺の華厳教  
永正云夜年より大石家  
開基快翁宗願首座  
大光山宝梅寺 此地九段  
日蓮三ノ山  
高寺也

○布古村のあり  
境内に石塔あり

源曹常勝村天保元年  
梨原山月毎

本寺 釈迦如来 安河孫氏

持口 十六段横  
宝曆元年建立

開基 大良親大和尚  
元禄二年九月に建立

障樓 方木

天正十八年寅子より子言

鎮守神

二世 清庵宙大和尚  
元禄三丁巳より古口

法堂など

三世 寛秀廓大和尚

當山開基 堅親院教心得全丁大居士 水地有子

三代和尙 寛秀ハ水地有子長男其日部小波谷村の  
宝曆元年開山 神祇の御供也也張をり

什お持領の由き丸内ニ文字の故付たる穀院傳集ス

○高洞某原

とて古方より古  
右の二種高洞寺

地内寺町九反二反際地  
古月三町四町五町六町  
七町八町九町十町十一町  
十二町十三町十四町十五町  
十六町十七町十八町十九町  
二十町

○布古村内  
古地不知

源曹常勝村の月毎

八王山安養寺

本寺 阿彌陀如来

開基 雲照宿公和尚

日永日永

○布古村内古境  
部似ふ是を助除

本寺 釈迦如来 水地有子

後醍醐天皇御代より有る寺  
寺下次は後及九代に

達元山某院寺

田基

和受玄光和書

中興大仏巻道書

年慶馬志

上白

東門内古桑車馬

天神山澤紀念寺

○布衣村の中をとり  
吉野一取寺跡地

本寺河原院 西

田基式部々

境内

天満天神社

徳元

昔の或々々と云々堂上の方の邊にと云

延徳大僧人の畫像を持徳地治の再修りよ尚ほ入寺以來よ  
堂を修し右のひし元禄年中の比本寺の別名一寺なる  
尚浦敷山氏一取の助力し由代堂をたに再興なり天神の神社  
性古の古くをたれりしと尚ほ(聖徳太子の地内と成り

○天王社

持殿

香井 大社

布衣村

福色白色 古く是れ  
ハノ如少の二處なり

糸礼ありし古車部物人形摩振り等せ地打焼に修り取を  
為約學家五人扱持ふ邑中ふ天王社並へ川邊也

○連池

(布衣村の同業所の北をとり保元地内の乳に取ん  
雲を流しつと云と云ハ思ひ堂に水塔城はし

○治古藤

治古藤

連布衣村の昔頃一町半の中

藤の蔭りたる石河り古く治古藤次なるいと云流所布衣に在り  
矣と取りおきて処に納屋を造りて例を志たる処にて今  
形云とこ尚ほに後流と云し

福書布衣村の月夜末

法善山正堂也

末

○富貴村の中  
五取の古寺也

本寺土面觀音 行巻次

安永十三丁巳年

田基巻山祐公首座

尚白堂基時代也  
不記也

○富貴村古地  
五ノ宿常陸

右の山

源谷山教福寺

平一

本寺新迦如来 住持

閑基寺有全弘和尙

市場村市原村ニテ富貴村の古地

○八幡文 八王子 (本社有古地)

富貴村 正光寺

○天王社 山の神 (古社地ニ有)

日村 教福寺

ナリ毎寺ナリ

○東大寺村後地

本寺新迦如来 住持

源常寺僧天正法末

大寺山真宗寺

○茶師堂 真宗傍部依古の本寺

閑基 文人徳公在元

昔の古村に在りて本所法末の古地  
古寺を再興し堂宇たりて其  
之を八幡色御堂入ト云ふ

天台地田密院末

法輪山圓観寺

法下

本寺阿彌陀 木匠依

閑基 宗貴法下

尚山六芳の白雲山田老坊  
云し申比改多寺地ハ古く  
戸田法雲ト云人の跡地にて  
古地探の月七及八の古地ハ  
本寺本寺古地ハ己の源の  
形も強んかき上寺探ト云べ  
き持たせたり

○天神山 東大寺村

○東白山 景 〇西白山 景  
口下ト云化 里後ニ在りしと云



○長尾村軍士墓  
二取三歩半中地

東門迄五里余

神宮山階満寺

本寺河津院

開基吹田云坊

吹田云坊長子中の人といふ  
しりも妻持流きく由流石志  
予けりるに比利發之の信  
益を好まずしからんをに抱  
びしりるにや

○東浦玄成宗村廻方  
古境古町廻方廻

降ぬ部田村祐福宗

天龍山常樂寺 上人

本寺河津院

塔及四新

開山空觀宗是上人

龍世院  
高參院  
遺降院  
勸養院

觀音堂 西葺師堂 掛門方六 障樓

寮舎 庫裡 鎮守神社

寺領又拾八石五分八分

古く百貫文秀在殿下り時居る  
神表御徳下りしりる是と位の  
時分元禄十三年のりりし位中興

折南の文の十六 甲辰年 景光上人 開創而傳云知山流多那  
の意中寺の四つ末の六地七ヶ  
神表御徳の御表私之別 降脚の時西浦常降色分け成る  
通所献納高の位依持 得志更の折く百貫文神表是長  
七庚寅の御立治 依持空上人を系傳らるる石御徳の位の大  
五ヶ板倉淨智寺兼 今河原よりして御徳付た載り長成念の  
比代官柳系六郎七の右御徳より西本石の田畑は後より  
十三年 淨智寺御徳守持院の時高平八石五分七分余大寺  
比後徳光御徳田方たよる寺知空上人遷化の好位神徳く

中後の間に右衛門下校割たれた跡及び廣道上人堂下の  
兼道はは御供中と云ふ所よりは御供も云々云々

○成岩村を境内  
或及二町に降地

東国徒京六条五条

お塚山を量る事

本寺河法院

塔及三坊

教光坊

岡山寺林院新うり者上人

支例なり

淨土寺

瀧樓 左般若堂 惠門 御堂 宿屋

行光寺 教信坊

尚ちハ始後ス之助平坂ニ江戸余子ニ日常安心する所坊係名大のり成  
園連ハ社元ハ江戸坂原氏より久安林寺に在り後大寺社上人  
親善寺西校のや子ニ寺南面ニ別御堂ニ御供中判のまを庵人ニ  
留之陣法随表而為子と云々又連ハ信紳の商而位三加

吉色村

什のまはるれ華蓋

せいこの茶壺

○親善堂

春日女坂

成岩村

堂守の信所信久  
老宗より伝へる事  
親善堂ハ此の

西南ノ端に在る地ニ南を向てし  
不審一古け処にけ石をまのりしや

淨土寺附天保元年

成福山大昌寺

○成岩村古地  
或及ふ所降

本寺新加仏 善徳 春日女坂  
天正八年九月の年

地蔵寺定期供  
本寺内降ある

岡山三幸和尚

○徳燈之社

右社信文

成岩村

社人

持殿

高井

△ 系 從二位成石天神

(東南に成石村ト社名傳へたり  
社名傳へたりト社名傳へたり)

△ 日 從二位奉葉天神

(社名傳へたりト社名傳へたり  
社名傳へたりト社名傳へたり)

○ 古葉所

春月氏依

成石村に在り昔の大地を嘗て

大地と名づくは嘗て一なるその嘗ては古葉所といふ  
本を以て別にして別ひ有りて外に古葉所といふ  
同所とすは古葉所といふは古葉所の所を以て  
の所たる古葉所といふは古葉所の所を以て

○ 石川

成石村の南を流たり常陸ト成石の間に

流古河原の古河原の所を以て石川といふ  
石川といふは古河原の所を以て

長是英比谷輪申を取ス部

○ 角島村古後

天台田舎の所

鳳凰山平泉寺

河原院

運送依  
河原院の所

中興 守玄法師

白山社

持殿 持社は

○ 氏神

持殿 名義

角岡村

平泉寺 門外

○ 角島村古

本寺

岡山

龍即山雲谷

上人

○卯山村境内  
馬場

天台新別当波島院末 法下

大田山家務寺

院内

本寺大日如来 弘法

元禄二年

中興秀喜法下

○地蔵堂 安河原

從古僧教大師尾基を以て古海に于時長安寺と云亡坊は  
中以兼へ山伏の指分とあり居たり元禄二年秀喜再興  
中興と成り後清夢院死下の取返すと云兼節歌敷  
をり交秀喜兼代色くと取替ひぬれ元禄二年一  
南信に至り宝曆三年と在別志天台一流の清信と極り  
て清夢院配下を去り于時々の寺小乃寺に改称点六  
長泉寺と云し 日村の内々字に小所堂と云あり  
定観の依親世を安河原に在る末山大橋の堂  
ちと云ありと云しと云し兼く中比ち山の寺を府下橋所の

妙管と云はるは是れと云味濃地に某堂を築びこみ堂と云  
云あり 性古長安寺の坊中一々字に大門と云あり  
尚親長大の者より強力留立し中二の禪定をせしあり  
者大寺物の法替たり 富士白山寺蓮の寺と云

○氏神社

卯山村 安河原

持殿 名井 持社二名

降法角長村を各々末

○卯山村境内  
之取堂

菟卷山弘祖院

本寺

岡山

院内 庚申堂

○古城跡 在坂部邑平末方部内在西口平ノイノ十  
南北五十歩二守渡ヲ掃く是之妻佐原守後跡在之  
古俗呼之英比ノ城ナリ

或記云坂戸村古嶽、内六反古風古八歩、亦小七反、  
一保、小東、南、北、五十八間、二、三、段、坂、部、村、申、百、方、  
立、り、是、久、松、依、後、守、岳、嶽、と、云、一、保、也、年、に、去、平、  
御、守、候、に、お、存、有、一、保、岳、嶽、在、り、申、百、南、山、  
同、山、に、は、依、り、是、右、の、列、村、に、成、り、天、之、の、社、有、り、列、  
御、申、也、右、交、守、を、是、と、云、ん、と、

深曹が本村兼伊古末

神溪山同雲院

坂戸村境内  
坂戸村境内

本号

英比久也社系鳥女尊  
有んと云

閑山

青  
從二位阿久比天神

一保  
英比

上五  
神三村

持殿 鳥井

英比古古の比敷事今阿久比の  
英比古古の比敷事今阿久比の

本國帳云、住云、今號英比殿、男女、像、民家、交、  
々、蓋、古、有、官、祠、テ、今、亡、者、也、或、云、英、比、在、  
古、俗、自、古、奉、下、号、英、比、殿、男、女、二、福、小、像、在、  
民、家、每、元、以、一、夜、交、轉、祀、之、折、杖、桑、畧、記、  
所、謂、岐、社、明月記、所、記、御、靈、過、祭、類、也、  
或、云、英、比、殿、八、世、公、子、而、今、子、孫、稱、新、氏、  
内、是、也、標、梅、輪

明月記

建仁二年  
四月八日條下  
云、系、水、三、所、殿、此、過、祭、二、社、被、  
御、申、申、一、方、頗、副、田、樂、土、供、奉、云、民、等、每、歲、  
先、云、云、山、嶽、山、傍、天、王、の、社、也、社、傳、云、  
ハ、リ、素、蓋、鳥、女、始、而、氣、向、ト、考、ル、ニ、延、  
の、境、系、夜、神、ト、云、ハ、比、初、成、ル、今、本、社、  
在、を、在、天、王、八、五、子、在、を、天、神、八、王、子、  
の、祭、ル、而、ト、ハ、亦、同、ク、成、過、祭、ト、云、ハ、  
時、以、交、列、也、

建仁二年  
四月八日條下  
云、系、水、三、所、殿、此、過、祭、二、社、被、  
御、申、申、一、方、頗、副、田、樂、土、供、奉、云、民、等、每、歲、  
先、云、云、山、嶽、山、傍、天、王、の、社、也、社、傳、云、  
ハ、リ、素、蓋、鳥、女、始、而、氣、向、ト、考、ル、ニ、延、  
の、境、系、夜、神、ト、云、ハ、比、初、成、ル、今、本、社、  
在、を、在、天、王、八、五、子、在、を、天、神、八、王、子、  
の、祭、ル、而、ト、ハ、亦、同、ク、成、過、祭、ト、云、ハ、  
時、以、交、列、也、





○板山村古院  
三十五箇梅原

福曹板ア村田平院末 平

板山安樂寺

本寺阿保院 坂末

○觀音堂

開山

○天白地蔵堂

福住村ト板山村ノ間田西川沿ハテ堂アリ  
利量御堂ニテ美信立リテ人々ノ地蔵  
アリテ福住村奥昌福寺ノ持分アリ

○神明宮 権院 山神

植村

祭礼毎春秋八月十五日山車式御神嘗侍リ地打多ク地六

○福住村境内  
三箇箇梅原 本寺

日宗孫川ノ乾押沼末

福住山奥昌寺 平

開山

○岩鷲村古院  
五箇箇梅原

降西成呂常 末古末 平

常福寺

本寺

開山

○日村古月  
三箇箇梅原

东门徒之并支那古末

石場

本寺 阿保院

末古山ノ寺ノ石場

○大古根村古院  
三箇箇梅原

大日字口古末

石坂山蓮花寺

本寺 阿保院

開山蓮花坊

○三井村古院  
四箇箇梅原 本寺

降法角寺ヲ古末 皆正寺

つりふり

○矢口村寺内長三平同  
横大石伯家深あり  
妻林五郎ふは麗次

本寺

岡山

菅老古如來原住古子

一景園帳札、海卒院トナリ  
改多ク、修別古リ

東門院大也老住寺末

光西寺平

○あ三津村古院  
三郎ふ備家深

本寺 阿みだ

岡山

福曹修戸旧寺末

白部山室安寺り

○七白河村古院  
三郎ふ備家深

本寺

岡山

△是處莫比管輪中、邪從是海邊東浦邊の部

東口院三易修末上寺末

南泉山正通寺

○つりふり乙川村古院  
三郎ふ備家深

本寺 阿みだ

岡山

里流云竹本在門と云人建立  
りて竹中ふと号修と

○つりふり日村院古院  
三郎ふ備家深

本寺

岡山

竹林山法喜院平

修末

淨法如意湯末

法輪山海壽上人

塔以

壽正院

○乙川村  
三反及四反前原

本号

源曹左衛門天次郎末  
清源山清水

中井

○正八幡美

大社持殿

石巻井

持社

乙川村

柳原若狭

祭礼可下主。村北若狭八幡美、後所行列

御所子氏

小島丸若狭本御幕  
小車 人形衣表

小車

平福若狭持

小車

後角若狭

小車

富士丸若狭  
人形衣表  
若狭各庄  
若狭各庄  
若狭各庄

柳子

若狭の宮持  
若狭三持

神樂

若狭

社人

庄屋

能代口勢

神馬持部合十人 口勢能行

○若狭村  
若狭村出際陰内  
一五反 田 一五反 備前原

本号 新進伝

若狭人信部伝

用山 安伊全公

尾基 泉溪宗清居士

若狭各庄  
若狭各庄  
若狭各庄  
若狭各庄  
若狭各庄

源曹左衛門 若狭院末  
尾基山清水院

東門迄古在光明寺

宗

### 林正山淨願寺

○日村中より  
境内より傳来

本寺 阿彌だ如來  
開基 蓮如上人

高小の毎仁年中の比々  
蓮如上人達創志願寺  
中と云ふ所は此の寺

○<sup>武所</sup> 渡之住 神常天升

其地 名  
名所村

古社 邦成文 天満文

持殿 高井

高知寺神々  
天満文の寺あり  
山上は度石階を  
中しん

### 糸礼

○氏神

二社 舞殿

古表

持社

有徳村

山上石階登元

○友江村守古  
一五三の伝来

福曹院川純師傳来

### 光厳山安徳寺

和名

本寺 釈迦仏

開基 軌室 政元 和名

中興 関山 保山 和名

延徳在平徳地寺守ハ  
藤一師有委安徳師を  
保山和名の代々再興  
多りて和名地と成

○氏神

持殿 高井

友江村

○<sup>和名</sup> 渡之住 神常天升

其地 名  
名所村

今称 八初文

持社 七持

持殿

高井

社目

平地持道人

里後云生路大住持と云々  
八初文神に新産字  
多りて神を住むる字ハ  
安徳と云ふ所ハ







小川を依る者ほ志いかに是を行かざる強と之は行依る事可  
 補をう依る間の改易に成りてその後行長を科年信元を殺  
 せし是を悔む行元の弟和泉守忠重を以て刈原の城をとり  
 一強小川あり信元の弟和泉守忠重を以て刈原の城をとり  
 以て旧城の跡に之を居せり

城址 元城ト云孰押院ニ近シ

八幡宮 城ノ守護社

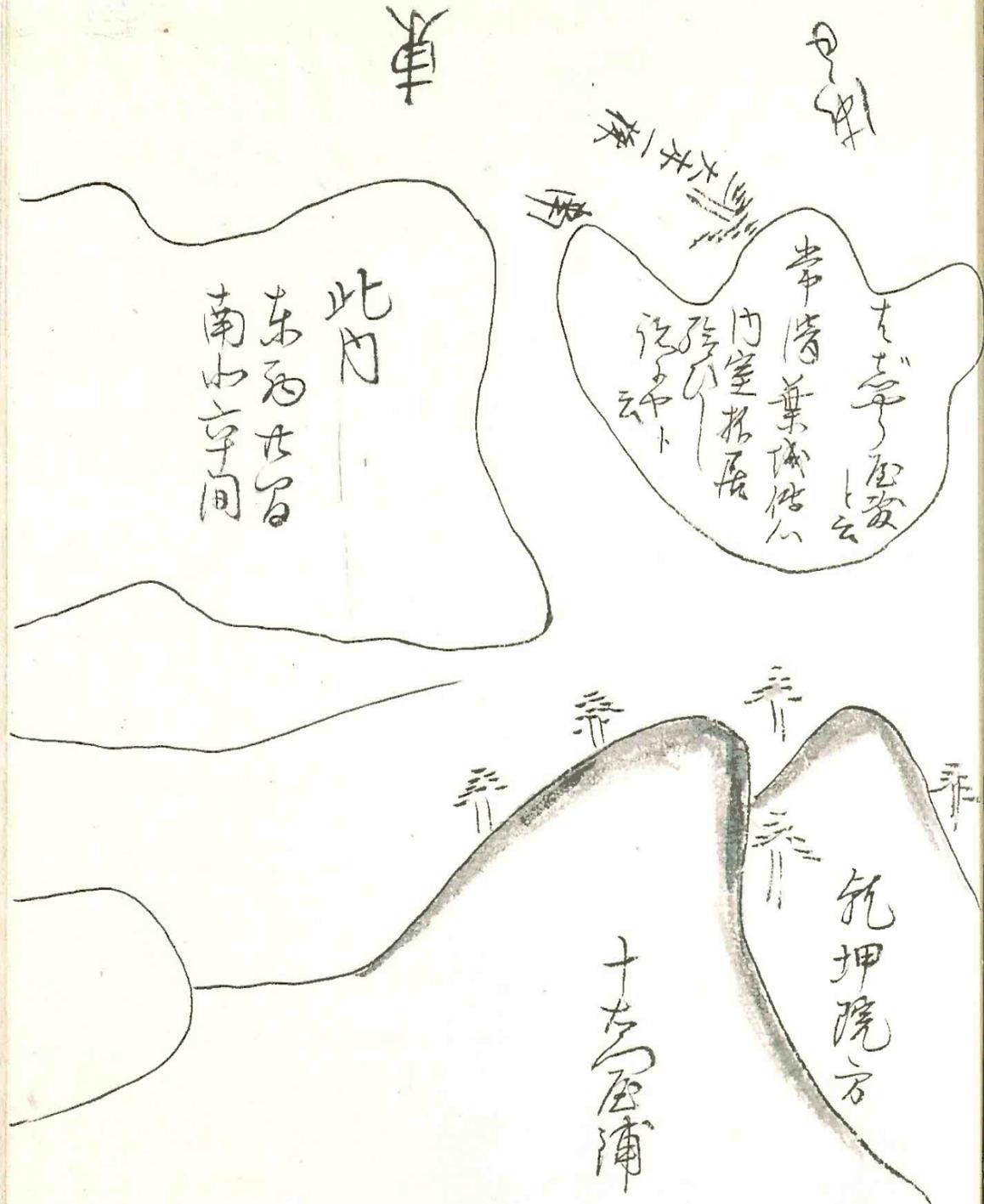
上ノ山ニあり持原と云り松原原と云り  
 山ノ水中氏代は是を造り世に

上畑 (是及一畝之控中  
 げり石の中) 赤岩

下 (畑及及部畑十七下  
 げり石の中) 赤岩

畔形 尹に云本せり

長徳院 昔此地別 過害の後ハ死城ニ築果せり 誠ア正忠守 伯後曾其也  
 小方而元 城新持後城 石ノ跡 寺を築きて 後々が 持原有是也 是也  
 討死而 于是也 遠別に 退きて 別 社を 造り 仕せり 是也  
 又廢城と 云はる也



○松川焼

南浦の産物にして小川は花とて色白西細く  
 昔にたぐり

東

馬屋

門跡

此曲輪の内  
 東西約拾間  
 南北四十間

北

十二ヶ処の堀係間  
 大木別に在り略這  
 千般のえを死す



水也堀於正忠守所城石段好水也堀後  
 の城下成ル  
 けするを云々  
 今氏家めい

け堀を後城ト云

大上極屋浦

由代在樹木の  
 左に  
 篠林の

松平記云  
 大上極の松平大上極  
 母弟ト  
 それの弟の  
 大上極と云々  
 御左房極と云々

松川

田

田

南浦の産物ト云  
 行内  
 家

○張川村境内より  
北に約五里あり

降旗京初為陸奥

上人

海鏡山寺守吉

本寺河内院

寺領内  
寺名目  
死南入

塔頂

兼林院

好中興開山九卷上人

寛長七年八月九日考逝云

傳通院殿 菩提智香大祥定尼

院城別伏尼遊云  
内位親安云々

但し屋浦内諸門村内

寺田廿一石九斗

但し廿一石八斗五分五厘云々

天文五年二月八日水也上屯吉保元等年

寛長十一年八月廿五日行内院吉内正安西判是ハ

傳通院殿日耕田九石九斗云々

寛長十二年五月十五日廿九斗云々  
院文忠云々  
元禄七年八月廿五日  
院文七斗云々

折寄古ハ社古信巻上人奉創開基の地而昔西端云々云々  
歷代

不語依為海鏡山波浪の邊付お書給未委給云々  
天文十

九庚戌年 宝巻上人け地に奉り古院營依け云々  
傳通院殿

神君御再堂  
御古堂御下云々  
け張川村ハ内生縁の地也  
院里の由云々  
折寄古ハ社古信巻上人奉創開基の地而昔西端云々云々

尾州智多郡緒川邑海鏡山善道寺鐘銘序

當小者不知乎何代開闢之兵專有道師真影於世  
 大師自畫也誠天面貌如語矣威儀以遵行微妙兮孰不  
 貴乎乎故喚於大師而為寺号歟雖然昔每願迨衰廢  
 矣越慶長年中九卷上人再興之故法幢閃爍而貴賤無  
 不應之道器類蒙而男女無不仰之是以東照大權現宮  
 尊办傳通院殿香岳智光大禪定尼為護持教正法宮附於寺  
 領矣從尔以來綿馬宮於伽藍連然桃於燈燭矣尔闕於室  
 鐘之因茲若了檀象遠近相和而求銘範於治工室堂四一火  
 而靈鐘成矣銘曰

蒲室額其甚分明

五趣同兮出迷情

意地能兮日夜盈

山首撞着兮百八聲

當院九世光譽南山領誌之

官延宝七己未年五月廿五日

張川村内境也  
 江所英 雲山古所

福曹大原院在列大旧院末

宇宙山乾坤院

本寺釋迦佛

開祖 川僧慧濟大和尚

二世 逆舟須和尚

三世 芝園宗田和尚

○水地院人自守益像

致相在長

水地忠善為六善

寺領三拾部石部中

水地部泉守祠堂

お入承百儀御 貴近狀水地部泉守忠意之  
 長七十八ノ十ノ真康寺の至因之判三拾一七中奉  
 長七十八ノ十ノ真康寺の至因之判三拾一七中奉  
 十三ノ五ノ五ノ一ノ永代ノ後ノ云々  
 天文七年七月十ノ 判判是ハ傳通院殿御判之使ハ因在御  
 五ノ川孫左ノ院人原田与信三忠地村与左ノ一ノ院判之使ハ因在御

什物

○妙善年又天

(妙善色表折く云々) ○  
(剛ゆト云傳善妙)

○胤灯基

(二世逆縁和尙二丈ノ行基ニ及テ破後年ニ於  
水也監物忠告再依ク妙ノ火焼ナリ)  
右の亦什宝唐景物安有ク然川水也家代ノ證文ニハ  
大形及テ刻ルルト信依牛藝和尙寫基ニの佛下荒坊立ク

南古ハ人皇百四代後古所門帝御宇文徳七年元月

小川の地ニ水也家代守建刹而清行信和尙為宗山南古ニ  
世住宗田和尙近化の後為輪着云七ヶ圓の内ニ于ニテ未  
山交代勅詔ス于時以應九度申(八月朔)云々

為水也家一統ニ善提判二致の位將安云々

水也家ノ古史忠政始ハ本筋宿川村指儀志後三列川包移ル  
天文十二年七月廿九日卒去昂 南古に葬儀

古原山推大居士ト号ス 或云水也家始ハ信然川城後日水  
水也色に托シ水也を以ハ断可成ト信ハ家守ト稱ク七次  
一書于次 豊基 以ニ代信姓 妻不知

于次方ノ古史忠政之以ハ号

和君所御也ト云々

云云

乾坤院の開祖に引ひたる芝園ハ其母氏始ハ芝原宗田也  
イニ永正元年甲子年比始ハ輪着云々 末院ニ于ニテ古史  
いもそハ甲ケ古作尾三両云々立リ南古の地後小川の麓下  
領内ト云云

源曹日本乾坤院末

上世山信宗院

○然川村月後院

本寺十二西觀卷一尺八寸

閑山

右の以系

醫石五山東光也

○日向寺地志及

本寺某師伝

閑山

○張川村境内  
寺五ふり子道宗

開山

○日村寺地寺  
寺五ふり子道宗

本寺河原院

開山

日蓮宗存下寺古河若徳宗

海量山院境内

寺五ふり子道宗

東門院三列地寺本院寺

り願寺

○從三位入海天神

初入元  
二七依元

張川村山口

神主

久米原寺

神像

高野

社小祠

石水陣

張云

神名帳云英比入元神社あり森の中に祠ありて入海從  
二位大明神と申す至而舊の楠を以て造りて高野神像  
あり社の棟れをとりて持元と申す文字借してさだめたりと  
す河に已に強きと申すなり

奉造立御神像一宇檀那象

伍母貝文

水也寺良馬  
信直

天文十三年 甲辰十一月

子梅がたつ美忠政死去(張云)

武貴文

仙洞

子梅の仙代りゆしハ廣忠公由知名  
ありまそ子梅お造り

五十正

五十正

源次郎

寺貴文

御象様

妙家水也寺

寺五ふり子道宗

百文

大工

妙家水也寺

五十正水也寺十部二十正日御所  
百文石原字古の之費七支水也寺  
久米小工

費文

五十疋 上極 古馬女

孫直亮八

死人

寺地除十疋

大寺町の正し 孫川の英比梅中  
非次英比入向小の者

入向の神社も色く 説是已 尚村神社令入向と云 (寺地系)

天台や田密花院末

法下

寶初山延命寺

大寺村境内の寺  
或所置ふ降地

本寺地蔵茶

境内 白山宮 二五〇

開基盛之祐律師

法堂棟敷多

中興 空海法師

塔頭 福泉坊

寺産 石三斗九升四合

御新下御馬下

田方寺町八畝古文分 け及取寺町五反之四十七分  
相方寺及取寺古文分

寺産 浦之反十八分

備前藩内

八畝寺境内 寺中 延命寺  
の寺は 延命寺 寺中 延命寺  
は 延命寺 寺中 延命寺

雲山

在古 寺内 惣間地

在古 寺内 惣間地 七石八分 寺中 延命寺  
拾石八分 寺内 惣間地 七石八分 寺中 延命寺

寺記云 開基の寺

歴石 寺中 延命寺 寺中 延命寺

書籍未終 夫而年代不為 寺中 延命寺 寺中 延命寺  
性古の大地 寺坊 新延命寺 寺中 延命寺  
惣名 寺中 延命寺 寺中 延命寺  
二ヶ寺 寺中 延命寺 寺中 延命寺  
その延命寺 寺中 延命寺 寺中 延命寺  
他 延命寺 寺中 延命寺 寺中 延命寺

上野

三條大綱云

天文或年 七月十日

定名

宝初山

延命寺 寺中 延命寺 寺中 延命寺

奉

唐曼文の代に 後奈良帝 御宇

為尾別知多常得華嚴傳心内儀  
序著撰也

天正七己卯年二月十日

室礼山延命寺常任  
預之

真慶任記 丑

真慶はけち中興三世の常得の傳心全才  
由麻友友為信守軍余之幸

奉寄進七帖装束  
縁之水也友友真春禪定尾敬白  
寶教山延命寺當任祿賢律師

け陽山守春大姉け八宛永十九帖手  
立り七七年年又水也ゆ屋守道次  
下知念了の息女友友忠の室妻平  
に殿改恵判の母弟也

奉寄進七帖装束二枚

為尾別知多常得直心鑑福  
大姉也

永禄八己丑年二月七日

般若谷蓮花坊常任親王法印

け陽山比叡山本位信  
包書  
白

延命寺紙為寄進合田畑  
拾九畝

四百七十八文目此内田方十は畝あり七十七文目  
畑方は實九畝八文目  
并山寺之別寺之屋石之石料  
田畑并付之儀別紙有之の石料

天正十七癸未九月七日 梶川又兵衛

延命寺  
出傍中

古夫村之内延命寺屋敷如  
前之儀後免許再之縁の  
内之山寄進与右通水  
内通之申付之条お違有  
る為之仍也料

竹内藤之

慶長七年

八月廿一日

正安 辰

法步院

御向宛中

申  
字云法步院之縁之  
山畑寄進縁許申之同之申

物御檢地延命寺之屋敷

之邊取給費之末代

寄進之儀水也通之由

之儀条之申之為之

并山屋敷之邊之由

之申之入之申之儀

八月十日 上田清之

法步院

正安年中



○天満天神社

社内八坂御寺に保子申領至河野内也  
新田紀附至 横根村

持殿 女表

○坂井大明神 大社

持殿 坂井 持社一更

横根村 社内祀

當社ハ原二位頼朝公の御時建久子申領度南の社と云傳  
各礼毎年八月朔日大祭 小尾 大根 落合 出方  
横根六ヶ村の惣氏社也 村々馬の塔あり角力も有る振合也

福曹大根村曹師也

海雲山善門也

○横根村境内  
大根村境内

客殿本寺釈迦仏

閑山中具りん蓮首座

○福曹堂 高那大七善也  
古伝也 在堂内ニ其長年号信馬  
御杖あり橋系也也

十王堂

南寺親善堂ハ白鳳也 中の巽基ニ古跡あり

○横根村古伝

二町九歩子也

本寺阿みだ

閑山

正願寺

東門院三列計修務也  
末 平

○大根村境内ニ反  
五町子浦歩除

本寺釋迦如来

閑基明窓下公記室和尙

閑山實田和尙

天澤寺殿に品布後部侍高秀等撰公大臣神  
永福三 庚申年五月十九日

清涼山曹源寺

字大書院坊舎

唐裡権門

願寺二社

福曹臨川村乾坤院末

和尙

之川修理左補義元其將近々補狭間合戦ニ為行長  
討死南古三世後義和為安室ま

尚山の明憲禪師宛刺書

福曹六曹源寺末

東光庵

○日本曹源寺の山日東方  
合戦の事あり源氏

本寺阿弥陀親書  
抄至

後  
親書堂

閑基明憲平公和者

中具 石峯立徹和者

○線文

社内  
之取

大根村

在東光庵北

○山祇 屯家社 白山社

日村

社内  
其末あり源氏

右社地曹源寺末宝福庵北下あり能化令部云寺を別  
東光庵のりにはや三曹源寺三別室任部八橋村の明古の  
末山トも是なり予の時の時字う南のりるありりあり  
和者院川色乾押院輪やある寺の地とてまゝ不為乾押院の末山  
とハ案也

○補狭間戰場

抑為は合戦永祿三申年五月十九日

藏田信長ト今川隆部左補  
お浪をりしに南の細き深く殊に大面積りに勢田の方不渡り  
来り義元の本陣近藏田勢の押狭れを志面けたるを糧を  
取らひ空々たる所を毛利新助本陣に中條小市達山を  
を山の内守線田お守守留さ先ん進中にも三たら中條  
歌ハ猛勢こけりさるが歌傷をもちあふるありや也只馬  
馳立強くもやれは行長も是に同馬を陰進を園を他  
て急攻れが余りに歌ハ因章落して叛逆人の喧嘩  
ひ志をく知を安伏せし  
かや通ル今川勢の流も向きて空射

はみ今や途に迷ふと云は義元の本陣は揚り居りて幕の内  
ふも軍勢の強弱を押し度先下知せざる処に彼部小卒はハ  
急度見えて幕の内に細代の子ありあらず殊に馬武者の足並  
揚り大にの範本ぞと思ひ後少卒を名乗り健を持し  
突如と義元ハ小蛇と云ふ刀を振うて彼部が膝の口を割り付  
けりし時隙に毛利新助実休やへへ首をかく処に  
志々二の膽を一本にの中へ入り身をかわり切て果れり  
後向響息を放北る戦散しつゝ若巻の去り去り  
人柄を善く討死せし是正に誓田大助那の加後なる軍こと  
云

桶狭間田余ヶ久保山際に入り揚るは方時二言四万  
義元は善の場をこそのははをふを町斗入  
義元ハ大空を有れは後向の山形と申は善の  
は不の者九行るは取捨ると桶狭間の事を云合所  
け各桶の如くおき各桶取るといふ  
義元の部三丁砲の答るを武路換るといふ合戦  
の時武者多く屯し武者多く武路換るといふ  
時が各答のるを武路換るといふ

武路換る

屋形狭間

義元塚

妻井塚

山田塚

小姓塚

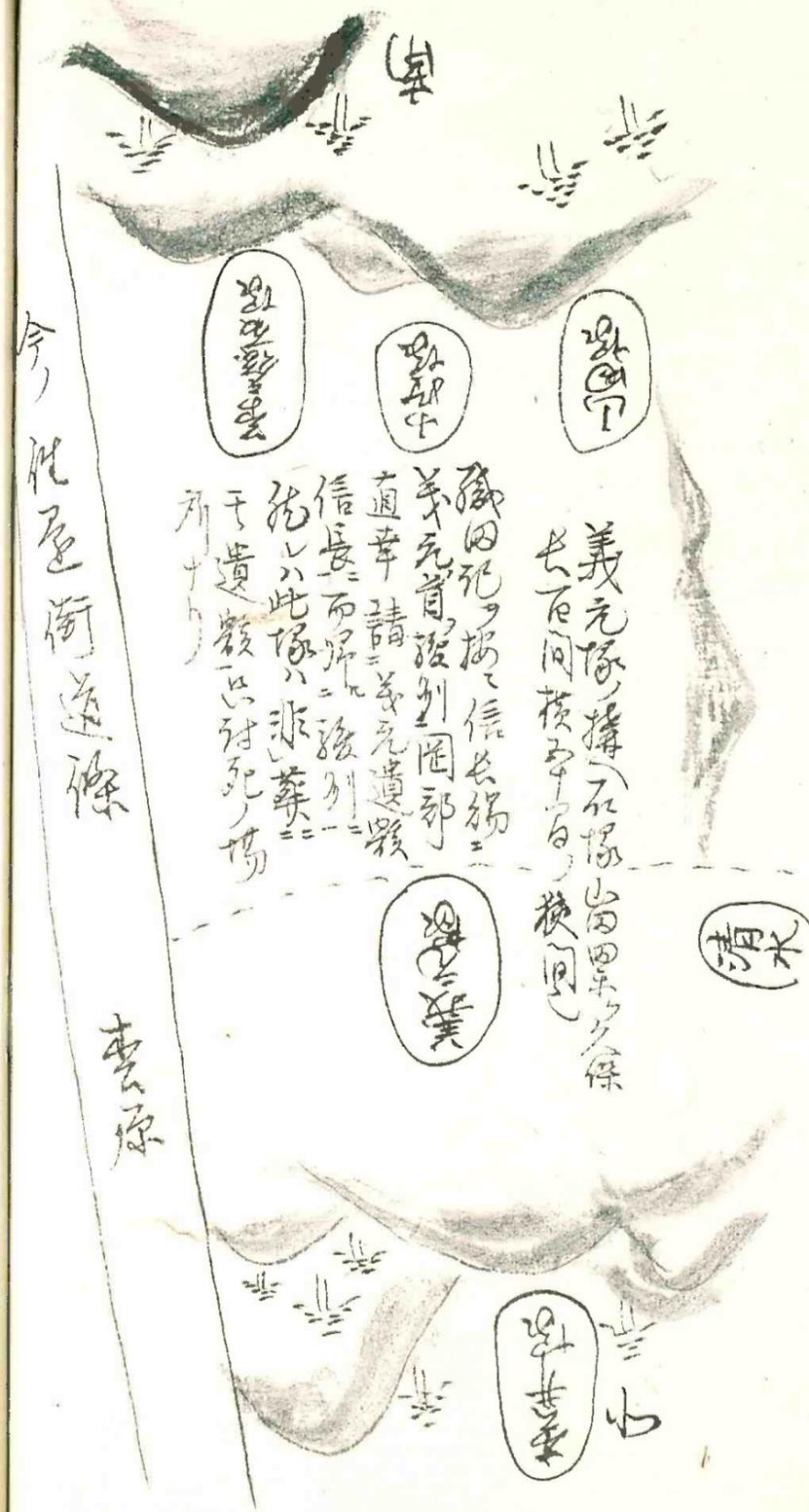
(在別二段の城を妻井あり八尋宗信討死の地也義元  
塚の半町斗り山と云は塚を云ふにんぬ  
山田利方の討死の地也義元塚が十六七回山の下乃方に  
入りけ塚に善くびて

と云はし皆に人なりし 古俗妻井あり八尋塚を松井八尋  
塚と云ふ 亦山田利方の塚を山田右左衛門が塚と云ふは  
今体妻井山田の皆義元の客人なりは軍に生きたるに  
好く義元の塚に善くびて 千々下を後世に強りそ外は門  
家の塚に依之間原原飯尾後井伊新末武功の面々  
お寺に討死せりと云は 塚下を強さるを云は妻井山田の  
客たるるを知る

清水

義元塚をぐるり廻り入り桶狭間村居也く少の  
水より十九朝義元糧をひひひの時汲る所  
水こしら村童の教也  
その街尾ハ古の戦場をては此の地是は其の地及古の  
方より古に五町と唱は山の内より我輩古唱は也皆誠

出儿古路之石古戦場に討死の場別石棒札を



義元隊構(石塚山)向田原之條  
長石河原(石塚山)向田原之條

織田記に據る信長編  
義元首級被刎田原  
直幸請義元遺骸  
信長而屍骸列  
此此塚非葬  
于遺骸只討死の場  
所ナリ

尚委實別之圖也

一曰予桶狭間の古戦場に在り舊記を撰り古史を討り友をたど  
神論に實を以てし存遺了憶如の情を以てし門塚の委の下  
を以てし石に字を添す  
「家」に朱して「昔」を以てし此の昔委の委のし跡下さひ  
再修して口を著し「至」之折「威」概の情深し日行各  
事「委」の早業と記す「日」り又「委」之「威」果「誠」  
昔「委」之「威」果「誠」

浄土宗 徳島  
和光山長福寺

本名  
関山

桶狭間村古史  
徳島 徳島 徳島 徳島 徳島 徳島 徳島 徳島 徳島 徳島

○<sup>氏神</sup>神明宮 (長十三年) 栢狭岡村

栢殿高井 後首々隆興之毎年秋八月十五日馬の塔を定

○東河地村新利園 栢殿高井 後首々隆興之毎年秋八月十五日馬の塔を定

言田留子福吉 中老 中井山西蓮吉

本意阿弥陀

開山

高古ハ留田新中尖ニ立リ一景  
大岩に横尖ニ後付処一易地  
再創唱海峯高地ニ或四た少  
首々隆興之の地ニ為思詳

○阿地村金吾のト之區百姓代ノ通街の名 御月見每氣  
市ノ朝の丸一巻有然ともたきや

○子ノ塚 (唐合邑立山上一)

街道ノ花山

栢狭岡合戦の時法勢殺満々を地下其那中(新馬)と  
あきせけ処ノ死骸を収集ノ塚を築き法舎を志ふ右の寺に  
立几養元ノ冥將ト以信ノあまニ栢狭岡ノ所方ナリ所  
ノ路を福也

或人云必キ戸敷を築メ埋たるにハ淋レリ信長大に掃利を為程ニ  
信長ノ塚を築キたるある人々長篠合戦の存も塚を築キテ  
伝云塚と傳フに立リ亦之列存田也子ノ塚と号以立リ  
皆古戦場ノ事ナリ一なるハけ塚ノ右ノ事也(区有ん)り  
亦信長唐士ノ仙人留田浦に上リけ処に田ん夫右仙人  
塚ト云説をりて子ヲ祀ルス夫及祀行栢高井ノ  
るを立リ)銘ありハ安説也

○古名 飯塚

有雲村 南ノ名物子際際至而区シ家毎に  
為三度葉ニ云ふ如品なり

○延享三年(1796)八月二十日鳥丸正三位大納言友宗光榮公園下の時  
 二つ明神の六藝田を立し其部公声傳し延享三年  
 ふうとうとてしまたあつたふり多きに折る跡一と云  
 所の名を回(ハ)有雲と云  
 一時的に家にしりたりや何れを乃指さくも声繁く啼

○有松村宿中入合たり  
 山とまたり古後名詳

本寺釋迦仏 作あま

開創 陽泉世代春舟和尚

台殿和尚木像  
 宝曆十三年  
 延享三年七月廿八日  
 有松村中町原裏山

坂前、有松村の古松所  
 民在庭室なり陽泉の  
 山とまたり古後名詳  
 田たつて破壊寺あり故  
 古松山の寺を爰に引  
 用ひ宝曆二三年の比  
 春舟和尚の地を建  
 而て一ヶ寺とせり

○台殿 天大和尚養

陽泉の世代有徳なる名の僧にして堀へ鹿鹿の新願を掛  
 塚の七砂を取祈れ速に千歳をとりつゝ遠近を名傳せり

○神明宮

有雲村  
 け社相換同村同なる合件  
 有雲の昔日の相換る村の  
 校々しと云

冬礼ハリ、と云る有雲村の持おふとてし神名をとり冬  
 舞文の口村

海老島風流別心抄村並書末  
 和光山長福寺

大権山祇園寺

○神名帳集説 出宮社地名分部

去外

一 從一位智里村名社

一説 智里村

何地品以

一 從三位海相天神

一 從三位豊衣天神

一 從三位武雄天神

一 從三位崇北天神

一 從三位湊山天神

一 從三位阿奈志天神

一 正四位下標屋天神

○寺院末勅之部

漢庭川名守吉末

極下寺

○石濱村口

法為居海末

淨土明住古

○小尾村名

五願子除

淨土漢西為山兩流ノ旨

根豆志公市奈村 稱院社

從馬公美梨村 稱院社

曰 鹿首山村

大馬公美村 稱院社

曰

曰

曰

○美田村寺  
○大谷御座

○東之池  
○茶之山信谷寺

○久村寺  
○大谷御座

○去来山内寺  
○大谷御座

○山口村日  
○自光地玉

○西方寺

○大谷御座

○意徳院

○吹神村日  
○大谷御座

○仙光山宝樹院

○大谷御座

○抄取院

○東沼村日  
○大谷御座

○高田山慈光寺

○大谷御座

○光忠院

○切山村日  
○大谷御座

○淨光山永本寺

○大谷御座

○中唱院

○東沼村日  
○大谷御座

○屏風山泉院

○大谷御座

○堤岸院

○阿比村  
○大谷御座

○長命寺

○大谷御座

○医王山神昌寺

○大谷御座

○雲際寺

○大谷御座

○殿王山如正院

○大谷御座

○心法寺

○大谷御座

○清陽山正寺

○朝倉村日  
○大谷御座

○花春院

○大谷御座

○高根山正院



曹三易在村院末

延壽山長福寺

久村日

延壽山淨念寺

曹依正原末

明後山淨念寺

廿月村日

萬念山常福寺

曹依正原末

善門山新白寺

廿月村日

仙心山天性寺

曹大原曹原末

追分山淨通寺

大原村日

龍翔山宝珠寺

曹大原曹原末

万安山光智寺

石原村日

石原山増福寺

追勝村日

曹三易在村院末

延壽山淨念寺

曹依正原末

萬念山常福寺

曹加平や善政末

仙心山天性寺

曹依正原末

龍翔山宝珠寺

曹依正原末

石原山増福寺

曹三易在村院末

延命山全久寺

石原村日

明光寺

曹依正原末

長安院

石原村日

法石山玉雨庵

曹依正原末

波岸山極楽寺

村本村日

臨江庵

曹依正原末

瑞秀山妙法寺

村本村日

慈服庵

曹依正原末

法印庵

村本村日

安養軒

村本村日

曹布土人月杵末 和吉  
○半田村日 可雲山禪覺院 ○河和村日 信濃山金忠寺  
備除

曹依正危古末  
○乙字村日 雲鳳山長福寺  
○長福寺村日 海南山觀音寺  
備除

曹布土人月杵末  
○市原村日 宝光山園川寺  
○長草村日 延命山地藏寺  
備除

曹布土人月杵末  
○小字村日 隆顯山不動寺  
○八幡文 社明官 日寺  
備除

曹布土人月杵末  
○乙字村日 海雲山光明寺  
○山神社 隆正寺  
備除

曹大依村曹依古末 平  
○小虎村日 北山山院  
○觀音堂 隆正寺  
備除

曹大依村曹依古末 平  
○有依村日 山蓮會  
○山神社 隆正寺  
備除

曹大依村曹依古末 平  
○八坂山福原 山蓮會  
○山神社 隆正寺  
備除

曹大依村曹依古末 平  
○久草村日 盛泉寺  
○山神社 隆正寺  
備除

曹大依村曹依古末 平  
○成岩村日 雲沢寺  
○山神社 隆正寺  
備除

曹大依村曹依古末 平  
○半田村日 雲觀寺 ○河原院 隆正寺  
備除

一 神明天王 八雲社 三社内河原

一 天神交 社内或及二取分在木

一 白山宮 社内又及分松林布  
妻木寺丁或及分

一 山神社 高池之及分除

一 茶師堂 地内二取分在寺  
年交地 大日堂 地内七取分  
妻木寺二取分  
首除地

一 高文持院 社内或及分在妻木除

一 觀音堂 地内及分在除地

一 八幡宮 指松天王交 祭礼ハ、高寺塔  
八幡宮

一 八取大明神

一 停勢神明山神 祭八月十五日 柳子及馬  
一正堂本丸 村内分  
社内河原

一 友井明山神 薄寺 祭力天

板本元村 由傳言取

北条村 光昭言取

常階村 大寺言取

日色 宮降言取

上地同村

東端村 持宮言取

馬場村

河野村

石津村

八ッ屋利田 社内村取

進分村 津通言取

祭八月十五日 柳子及馬  
一正堂本丸 村内分  
社内河原

一 八幡交

祭八月十五日 柳子及馬  
一正堂本丸 村内分  
社内河原

下平岡村

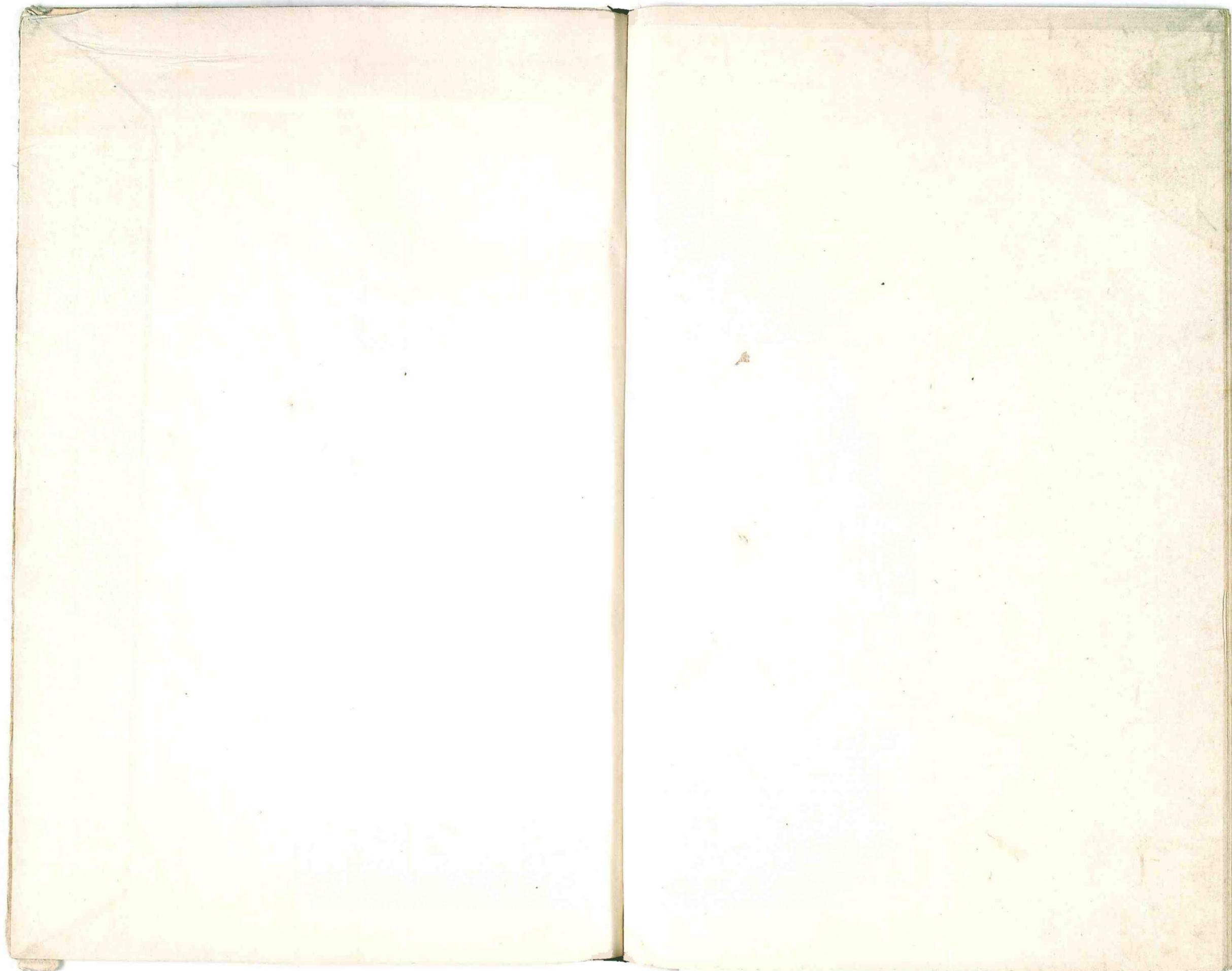
一 神明山神

祭八月十五日 柳子及馬  
一正堂本丸 村内分  
社内河原

村名英念

村取

祭八月十五日 柳子及馬  
一正堂本丸 村内分  
社内河原



愛 知 県



1103269540